

事項一二 ブラジル移民関係雑纂

一八八 一月七日

在伯国野田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

サンパウロ州農会ニ於ケル中国労働者誘入決

議ト本邦移民業者ニ関スル件

通公第八号

(三月二十五日接受)

大正七年一月七日

在伯

臨時代理公使 野田良治 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野 一郎殿

サンパウロ州農会ニ於テ支那人労働者誘入ヲ

必要トスル決議ヲ為シタル件

世界兵乱ノ影響ニヨリ歐洲移住民ノ伯国渡来数ハ逐次減少シテ殆ド杜絶ノ状態トナリ当国生産業中ニテ最多数ノ労働者ヲ要スル珈琲栽培業ハ最モ痛切ニ勞力欠乏ヲ感シツツアル事情ニ関シテハ斯業ノ中心地タルト同時ニ本邦移植民事業ノ焦点タル「サンパウロ」駐在帝國總領事ヨリ隨時報告アリタルコトト思考致候処新聞紙ノ報スル所ニ依レバ「サ

顧ス而シテ目下当国ハ歐洲労働者ヲ得ル能ハザルヲ以テ上記兩政府ニ於テハ亜細亞人労働者(註、此ノ場合亜細亞人ハ支那人ト同意ナリ)就中支那北部ノ労働者誘入ヲ計画スルコト適當ナルヘシ

トノ決議書ヲ起稿シタル趣ニ有之候

右農会ノ決議中前段ニ於テ労働者ノ大欠乏ヲ救済スル為メ聯邦政府及州政府ニ向ツテ至急外國労働者招致策ヲ講センコトヲ請願セルハ何人モ異議ナキ所ナルモ後段ニ於ケル支那労働者誘入説ハ大ニ論議ノ余地アルモノトシテ既ニ「サンパウロ」及「リオデジャネイロ」両市ニ於ケル新聞紙中反對説ヲ掲ゲタルモノ若干アリ其ノ要旨ハ支那人ハ忍耐勤勉ニシテ且抵抗力ニ富ムヲ以テ或ル種ノ農業其他ノ労働ニハ極メテ適當ナレバ其ノ誘入ハ勞力欠乏テウ当面ノ問題ヲ解決スルニ足ルヘキモ元來彼等ハ同化極メテ困難ト言ハンヨリハ寧ロ全然不可能ナル異人種ナルガ故ニ既ニ劣等人種混血ノ結果ニ困シメル伯国ノ人種改良上有害無益ノ異分子ナリ云々トテ之ヲ排斥セントスルニアリ尚ホ序ナガラ旧臘二十九日「リオ」市「ア、ルア」新聞ガ支那労働者誘入反對説ヲ掲ケタル中ニ本邦移民ニ関シテ

ンパウロ」州農会ハ内國生産問題ニ関シ聯邦政府ニ向ツテ提議篠漣スヘキ事項ヲ討議スル為メ旧臘二十七日幹事会ヲ開キタルガ同會議席上ニ於テ「ドクトル、ラモス、デ、アゼヴェド」(Dr. Ramos de Azevedo)氏ハ同州農作上必要ナル労働者ヲ歐洲若クハ隣國ニ於テ得ルコト不可能ナルニ鑑ミ支那ヨリ労働者ヲ誘入セザル可ラズト信ズ支那人誘入ニ関シテハ一種ノ偏見ニ基キ之ヲ不可トスルノ説アレドモ能ク研究スルトキハ支那移民ハ必ズシモ不可ナラズ現ニ多年支那ニ駐在シテ亞細亞人労働者ノ価値ヲ知レル伯國公使 (Paul Claudel 氏ヲ指ス) ト意見ヲ交換シタルニ同公使ハ支那労働者ヲ誘入スル場合ニハ特ニ北部支那ノ労働者ヲ選ブヲ利トスル旨忠告セリ云々ト述べ他ノ諸問題ニ関シテ協議スル所アリタル末「ドクトル、フェレイラ、ラモス」(Dr. Ferreira Ramos) 氏ハ

日本人ガ移民トシテ到底支那人ノ比ニアラザルハ争フベカラズ日本ニハ一層優秀ナル文化、並ニ近世化及世界化主義ノ顯著ナル傾向アリ日本人ハ知識的及道德的個人性ニ於テ支那苦力ニ優ルコト遠シト賞讃シタルハ稍快心ノ事ニ有之候

然ル処伯國ニ於ケル支那人ノ誘入ハ今ヲ距ル二三十年以前ニ於テ一度試験セラレシモ其ノ成績不良ナリシ為メ爾來招致セラレタルコトナク之ニ反シ本邦人ハ明治四十一年以來引續キ誘入セラレ其ノ真価ハ數年前ヨリ多数ノ耕地主ニヨリテ認識セラルルニ至レルニ拘ラズ今回「サンパウロ」州農会ガ本邦人ノ誘入奨励ヲ度外ニ置キ家族移民トシテ渡航セシムル望ミモナク輸送汽船ノ都合スラ覺束ナキ北支労働者ノ招致ヲ決議シタルハ一方ニ於テ同農会ノ無智ヲ表白スルト同時ニ他方ニ於テ當國ニ於ケル本邦移植民ノ存在ガ殆ド無視セラレ居ルコトヲ示スモノト了解セザルヲ得ザル義ニ有之候

而シテ斯クノ如キ本邦移民ガ度外ニ置カレタル理由ハ移民組合ガ昨年以後毎年五千名ヅツノ本邦移民誘入ノ承認ヲ得居ルニ拘ラズ募集困難ノ為メ昨年中規定人員ヲ誘入スル能

ハズ且ツ昨年末「サントス」入港ノ第三船若狹丸搭載移民ノ如キモ大部分沖繩県人ヲ募集シ来リテ辛ウシテ満船ニ達スル人数ヲ得タル等ノ事情アルカ為メ本邦ヨリ所要ノ人数ヲ得ルコト不可能ナリト見クビラレタルニ因ルカ或ハ既渡航本邦移民ノ状況ガ農会幹部ノ人士間ニ殆ど知ラレ居ラザル為其ノ成績ハ最初兩三回ノ渡航移民當時ノ如キモノト誤解セラレ居ルニ因ルカ執レニシテモ農会ヲシテ斯カル決議ヲ為サシメタルハ多年「サンパウロ」市ニ事務所ヲ設ケテ本邦移民誘入ヲ營業トセル移民取扱業者ノ正ニ大ニ慚愧スヘキ所ナルヘク若シモ移民組合業務代理人ニシテ屢々当館ヨリ注意ヲ与ヘ置キタル如ク本邦移民ヲ備用シテ満足セル耕地主等ヨリ証明の書簡ヲ徵集シ置キ且統計上ノ数字ヲ以テ本邦移民ノ優良ナルヲ何時ニテモ挙証シ得ル材料ヲ蒐集シ便宜之ヲ冊子ニ印刷シテ広く配附スル等ノ廣告手段ヲ講スルト同時ニ「サンパウロ」州官民中ノ有力者就中農會員、大地主等ト平素往來交際シ以テ本邦移植民ニ関スル彼我事情ノ疏通ヲ図リ且巧ニ此等有力者ヲ利用シタランニハ今回ノ如ク農会ヲシテ支那労働者ノ誘入ヲ必要ト認ムトノ決議ヲナサシムル代リニ「現ニ支給シツツアル渡航費、補助額

ヲ増加シテ更ニ多数ノ本邦移民ヲ誘入スル様聯邦政府及州政府ニ請願スベシ」トノ決議ヲ為サシムルコト敢テ難事ニアラザリシナラント推測セラレ候又本邦（就中沖繩以外ノ諸県）ニ於ケル移民募集ノ斯カク困難ナルハ如何ナル理由ニ因ルモノカ承知致サズ候ヘ共若シ家族構成条件ノ窮屈ナルガ為ナリトセハ目下独身ノ支那苦力サヘモ誘入セントスル際ナルヲ以テ之ヲ子女ノ有無若クハ子女ノ年令如何ニ拘ラズ夫婦者以上ト改正セシムルコトモ強チ不可能ニアラザルヘク若シ又多額ノ渡航費用調達ヲ要スル為メ募集困難ナリトセバ一面渡航費用ヲ節約セシムルト同時ニ他面ニ於テ耕地主ヨリ前貸ヲ為サシムルコトモ出来申スヘク要ハ移民組合ノ誠意及努力次第ニテ如何様ニモ解決セラルヘク目下千載一遇ノ好機会ニ於テ万事ヲ自然ノ成行ニ任せ袖手傍觀ノ態度ヲ持スルガ如キハ当国ニ於ケル本邦移植民事業發展ノ為ニモ將又移民業者ノ向後ノ利益永続ノ為ニモ共ニ遺憾トスル所ニ有之候

尚ホ右支那労働者誘入云々ノ問題ハ同国臨時代理公使ノ口振等ニ徴スルモ仮令一部タリトモ移民自身ニ於テ旅費調達ヲ要ストセバ募集困難ナルコト、殊ニ輸送ノ便宜ナキコト

等種々ノ障礙アリテ其ノ実行ハ到底不可能ナルヘク從テ我ニ於テハ毫モ支那移民ノ競争ヲ懸念スルニ及ハザルヘキモ右農会ノ決議ハ偶以テ本邦移民業者ノ無為無能ヲ裏書スルモノニシテ確ニ頂門ノ一針タルヘキヲ信シ其ノ反省奮起ヲ促スノ目的ヲ以テ茲ニ一応申進候次第ニ有之候 敬具

本信写送附先 在「サンパウロ」松村総領事

一八九 一月八日 在伯国野田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

ミナス州知事候補者ノ移民奨励意見報告ノ件

通公第九号 (三月二十五日接受)

大正七年一月八日

在伯

臨時代理公使 野田良治 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

「ミナス、ジェラエス」州ヘハ去ル大正二年中金鉞行本邦移民ヲ送遣シタルヲ初メトシ大正四年ヨリ同州西南隅地方ノ珈琲園ニ本邦農民誘入ノ端緒開カレ而シテ金鉞移民ハ全然失敗ニ了リ珈琲園労働者ハ今尚ホ試験期ニ属スルモ同州ガ本邦人移植上「サンパウロ」州ニ次キテ有望ナル一州タ

ルコトハ疑フヘカサル所ナリ

本年九月七日ヲ以テ四ヶ年ノ任期満了シ退職スヘキ同州知事ノ後任者選挙ハ州憲法ノ規定ニ從ヒ来ル三月七日ヲ以テ行ハルヘク其ノ候補者トシテ「ミナス」共和党ヨリ同州下院議員タル「ドクトル、アルトゥール、ベルナルデス」氏 (Dr. Arthur Bernardes) ヲ推シ其ノ当選ハ既ニ必然的ノ

モノト見做サレ居リ本月五日同州「ヴィソザ」市ニ於テ政治の大宴会ヲ催シ席上右「ベルナルデス」氏ノ施政方針朗読アリ氏ハ先ツ「ミナス」州ト伯国聯邦トノ関係ヨリ説起シテ諸州ハ中央政府ヲ援助スヘシト述ヘ且州政府ノ官吏ニハ適任者ヲ選ブノ必要アルコト等ヲ叙説シタル後經濟及財政問題ノ寸時モ忽ニスベカラザルヲ論シ「ミナス」州ハ未ダ工業州タルノ資格ナキヲ以テ第一ニ農業ヲ保護奨励シ盛ンニ農産物ノ増殖拡大ヲ図リ此ノ目的ヲ達スル為メニハ或ハ農業教育ヲ盛ニシ或ハ森林地帯ノ衛生状態改善ニ注意セザル可ラズト告ゲ更ニ移民奨励ノ必要ヲ論シテ曰ハク

「ミナス」州ノ農業ヲ困シメ且其ノ産物ノ増加ヲ遏止スル種々ノ悪因ノ一ハ勞力ノ欠乏即チ田園労働者ノ不足ナリ、当州移植民ノ出入ハ茲ニ審査スルヲ須ヒザル原因ニ

ヨリ常ニ僅少ニシテ宛ニ角当州ノ農業ガ新国發展ノ要素タル勞力ヲ十分ニ得ル能ハザリシハ明白ナリ而シテ從來既ニ斯クノ如クナリシトスレバ現今世界戦乱ノ非常時ニ於テ歐洲移民国ガ戦乱ノ渦中ニ投ゼル時ニ當リ移民誘入ヲ企ツルハ蓋シ無用ノ業タルベシ此ノ状態ハ思フニ戦後ニ於テモ尚ホ繼續スルナラン從テ吾人ハ国内ニ休止セル勞力アルコトニ想到セバ本問題ハ容易ニ解決セラルベク即チ伯国ニハ毫モ自ラ活動セズシテ寄生の生涯ヲ送レル者多キヲ以テ宜シク彼等ヲ農業労働ニ利用スヘキナリ云々

即チ戦乱繼續中ハ勿論戦後ト雖モ当分歐洲移民ヲ誘入スルノ望ナキヲ以テ之ヲ国内徒食者中ヨリ得ントスルノ意見ニシテ頗ル窮策ト評セザル可ラズ

「ベルナルデス」氏ハ尚ホ引続キテ珈琲問題、農事産業組合、運輸問題、畜産業等ニ関シテ施政方針ヲ表明シタル後植民事業ニ関シテ左ノ如ク述ヘタリ

「ミナス」州ノ法令ヲ以テ設定シタル植民制度ハ時勢ノ進展ニ伴ヒ且現時局ノ結果トシテ必要トナリタル改正ヲ加ヘザル可ラズ戦後歐洲移住民ノ渡来ハ種々ノ理由ニヨ

リ著シク困難ナルヘキヲ以テ新世界ノ諸国ヨリ植民ヲ招致スル新計画ヲ為サザル可ラズ若シ吾人ニシテ從來ノ植民方法ヲ改鑄シ現ニ実行セラレ居ル如ク土地ヲ払下クル代リニ之ヲ開墾耕作スル条件ニテ且若干年間ハ之ヲ売却若クハ讓与スルコトヲ許サザルコトトシテ植民ニ土地ノ無代下附ヲ行フニ於テハ多分植民ヲ当州ニ誘致スルコトヲ得ヘク斯クテ州内ニ於テ吾人ト共ニ農業發展ニ協力シ且之ヲ大ニシテハ伯国ノ土地植民事業ニ貢獻シツツ彼等ハ移住新開ノ為メニ払ヘル犠牲ニ対シテ十分ナル報償ヲ得ヘキナリ吾人ハ未墾州有地テウ偉大ナル財産ヲ所有シ而カモ此等ノ土地ハ今尚ホ未開發ノ儘存在シ且之ヲ監視若クハ監督スル為時日ト金錢トヲ費シツツアルヲ以テ此等ノ土地ヲ必要トシ而カモ之ヲ耕作利用スルコトヲ知レル者ニ交附シテ活潑ニ生産セシムルハ最モ機宜ニ適セル処置ト言ハザル可ラズ

要スルニ「ベルナルデス」氏ノ「ミナス」州移植民事業ニ関スル意見ハ本邦移植民ヲ全ク度外ニ置キ專ラ欧米人ノミヲ目標トシテ歐洲移民ノ欠陥ハ国内無職ノ徒ヲ率ヒ来リテ之ヲ補ヒ歐洲植民ニ代フルニ米大陸諸国ヨリノ移住者ヲ以

総領事 松村貞雄(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

歐洲戦争ノ影響トシテ労働者ノ不足ヲ感シ之ヲ日本ニ需ムルモ、其欲スル丈ケノ労働ヲ得ル能ハズシテ甚ダシク困憊ノ状態ニアリシ当サンパウロ州ノ農業者ハ兼テ日本及支那ヲ視察シテ帰国シタル当国外務省官吏「ナホレオン、レーズ」氏及前サンパウロ州農務長官「モラエス、バロス」氏等ノ意見ニ鑑ミ支那人ノ輸入ニ着眼シ過般來内々彼等ノ間ニ其善否ヲ考量シ来リタルガ、客年十月伯国ガ独逸ニ宣戦シタル後当国農商務大臣ハ協商諸国政府ノ例ニ倣ヒ、内国農産ノ奨励ヲ告示シテヨリ是迄労働不足ヲ感シ来リシ当国農界殊ニ当サンパウロ州ノ農業者ハ之ヲ公ノ問題トナシ爾來公然亜細亞人誘入ヲ論スルニ到リ遂ニサンパウロ農会ハ客臘二十七日当市ニ於テ會議ヲ開キ労働問題、農業銀行問題及運輸問題ノ三議題ヲ討議シタルガ就中労働問題ニ関シ會員「ドクトル、ラモス、デ、アゼヴェド」氏ハ起ツテ「吾人ハ我農業ノ要求スル労働ヲ歐洲及隣国ニ需メタレドモ、目下到底之ヲ得ルノ見込無キ」ヲ説キタル後「此ノ際支那移民ヲ誘入スル事ハ最モ必要ニシテ人種上ノ偏見ノ如キハ

テセントスルモノニシテ議論トシテハ甚ダ佳ナルモ實際ニ於テ本問題ハ毫モ解決セラレザルモノノ如シ故ニ若シ本邦移植民業者ニシテ少シク同州官民ノ重モナル者ニ接近シ「サンパウロ」州ニ於ケル本邦移植民中成績比較的良好ナルモノノ実例若干ヲ示シテ本邦農民ノ真価ヲ了解セシメタラシニハ仮令一部人士間ニ感情上ヨリ人種言語風習ヲ異ニセル本邦人ヲ歛バザル傾向アリトハ云ヘ現ニ自己ノ農場ニ於テ緊切ニ労働者ノ不足ヲ感ジツツアル耕地主等ハ自己ニ直接ノ利害關係アル利益問題トシテ必ズヤ大ニ本邦移住民誘入ヲ賛成スヘク目下ノ形勢ハ同州ニ於テ本邦移住民ノ広告ヲナスニ最モ適當ナリト思考セラル、

右御参考迄報告旁此段申進候 敬具

本信写送附先 在サンパウロ 松村総領事

一九〇 一月十三日 在サンパウロ松村総領事ヨリ
本野外務大臣宛

亜細亞労働者誘入請願ニ関スル願末報告ノ件

通公第一五号

(三月十六日接受)

大正七年一月十三日

在サンパウロ

目下之ヲ考量スルニ足ラズ」ト論シタルニ會員「ラモス、フェレーラ」氏ハ之レニ応シテ「余ハ本問題ヲ考量スルニ先チ、曾テ支那ニ駐在セラレタル事アリテ亜細亜労働者ノ価値ヲ知悉セラルル仏国公使ト支那人誘入ノ可否ニ関シテ意見ヲ交換シタルニ同公使ハ北部支那人ヲ誘入スルノ便利ヲ勧告セラレタリ」ト述べ「ラモス、デ、アゼヴェド」氏ノ動議ニ賛成シタルニ兼テ仏国ヲ崇拜シ旁労働ノ欠乏ニ困憊セルサンパウロ農業者ハ一モ二モ無ク之レニ賛同シ本案賛成者「ラモス、フェレーラ」氏ヲシテ左記ノ請願書ヲ起草セシメ之ヲ協賛セリ

「サンパウロ農會ハ現下産業ノ發展上大障礙ノ一ツトスル所ハ労働ノ欠乏ニアルヲ認メ、聯邦政府及ヒ州政府ニ向ツテ外国労働者誘入ノ目的ヲ以テ有力且ツ緊急ノ手段ヲ講セラレンコトヲ請願ス、尤モ目下歐洲労働者ヲ得ルコトハ不可能ト思料スルヲ以テ亜細亜労働者殊ニ北部支那人ノ誘入ヲ試ミルヲ便利ト思考ス」ト

尤モ当日ハ「パウリスト」鉄道会社社長ニシテサンパウロ州外来移民ノ鑰鍵ヲ握ル「アンテューネス、ドス、サントス」会社（日本郵船会社及大阪商船会社ノ代理店）ノ大株主タ

ヲ講スルナルヘシ、我伯刺西爾ノ珈琲業及一般工業ガ是迄歐洲人ノ労働殊ニ伊太利人、西班牙人及少数ノ葡萄牙人ノ援助ニ依リテ大ニ發展スルニ到リタルノ事實ハ何人モ敢テ疑ヲ容レザル所ナルヘシ、然レドモ吾人ハ今後モ従前ノ通り此等諸国人ヲ期待スル事ヲ得ヘキヤ、而シテ我珈琲業者ハ今後モ今次ノ如キ労働者欠乏ニ堪エ得ヘキヤ、此レ即チ今日吾人が目前ニ最モ重大ナル問題ノ横ハレル所以ナリトス、

「吾人ハ日本移民ノ誘入ヲ試ミタリト雖モ甚ダ少数ニシテ且ツ継続的ニ之ヲ得ルコト能ハザルナリ、サンパウロ州ニ於テハ是迄日本移民ノ誘入ニ関シテ屢々反対説ヲ唱ヘタル者アリタリト雖モ余ハ初終斯ル説ニ反対セリ、蓋シ余ハ常ニ労働者ノ国籍ニヨリテ徒ラニ之レガ選否ヲ云々スルノ不可ヲ唱道セル者ナルガ、殊ニ今日ハ一層有力ナル理由ノ下ニ之ヲ主張スル者ナリ、加之目下人種上ノ偏見ハ經濟上ノ問題ノ為メニ全ク圧倒セラレタルカ如キモノアルハ吾人ノ最モ仕合セトスル所ナリ、然リ吾人が今日必要トスル所ハ労働ニシテ其国籍如何ノ如キハ敢テ問フ所ニアラザルナリ、

ル「アントニオ、プラード」氏並ニ大耕地主「アルブルケルケ、リンス」氏及「ドクトル、エラスモ、デ、アスンソン」氏等ノ有力ナル実業家カ已ムヲ得ザル事故ヲ以テ出席スルヲ得ザリシ為メ、會議ハ充分其ノ光彩ヲ發揮セザリシガ、本月十二日ニ到リ「サンパウロ」州ノ農業ノ大部分ヲ代表スル珈琲同業者會ハ更ニ当市ニ會議ヲ開キ會長前見「アントニオ、プラード」氏自ラ之ヲ司會シ珈琲業者ノ時局ニ処スル問題ヲ討議シ尚ホ珈琲耕地労働者不足ノ件ニ関シテハ農會ト同様中央政府及二三州政府ニ対シ亜細亜労働者（日本人以外ノ亜細亜人ヲモ移民補助法ニ霑セシメントスルノ意ナリ）誘入ニ関スル請願ヲ為スノ件ヲ決議セリ

此ノ會議ニ於テ議長「アントニオ、プラード」氏ガ發表シタル意見ハ氏ガ当地実業界ニ於ケル勢力ニ徴シ、屢ニハ「サンパウロ」農會ヲシテ又今回珈琲同業者會ヲシテ亜細亜人誘入ノ件ヲ決議セシメタル主ナル動機トモ見ルヘク又右ハ他方ニ於テ此ノ種ノ当国有力者ガ日本ノ労働供給能力ニ対シテ如何ナル印象ヲ有スルカヲモ窺知セシムルモノナリ、即チ氏ハ論ジテ曰ク

「戦後歐洲諸国ハ労働者ノ移住ヲ避クル為メ総テノ手段

「ロイド、ジョージ氏ハ最近驚クヘキ雄弁ヲ振ヒタルガ、其中ニ目下協商国ノ要スル物三アリ、曰ク船腹、船腹又船腹ナリト言ヘリ、而シテ吾人モ亦言ハント欲ス、吾人が目下必要トスル物三アリ、曰ク労働、労働又労働ナリト、

「由來労働者問題ハ珈琲問題中ノ最要問題ニシテ、吾人ノ逸早く解決ヲ要スルモノハ洵ニ此ノ労働者問題ナリトス、若シ此ノ問題ニシテ適當ノ解決ヲ見ザランカ、我農業ハ忽チ萎微スルノ悲境ニ陥ルヘキヤ明ナリトス、仍テ目下吾人ノ須ク為サザルヘカラザル所ハ只管労働者ノ誘入ヲ計ルヘクシテ其出所如何ノ如キハ之ヲ云々シ居ル秋ニアラザルナリ

「故ニ吾人ハ此等ノ要求ヲ全国ノ利益ヲ代表スル聯邦政府ニ向ツテ具体的ニ請願セント欲スル者ナリ、蓋シ此ノ方法ハ經濟上伯刺西爾全体ノ利益ヲ計ル所以ニシテ一派論者ガ批難スルカ如ク特ニサンパウロ州ノ利益ノミヲ計ルモノニアラザレバナリ」ト

論シタルニ「カムプリー」農業株式会社大株主タル會員「カルロス、デ、マガラエンス」氏ハ「今日吾人が恐慌ヲ

救済シ得ル者ハ唯亜細亞労働者アルノミナレバ聯邦政府ニ
対スル請願書ニハ特ニ亜細亞労働者ヲ誘入スルノ利益ヲ記
入スルノ便」ヲ發議セルニ「ドクトル、プロコピオ、テー
シェーラ」氏起ツテ『本件請願ハ独リ聯邦政府ノミナラス
「サンパウロ」「ミナス、ジェラエス」及ビ「リオ、デ、
ジャネーロ」ノ諸州政府モ同様利害關係ヲ有スルモノナレ
バ此等州政府ニモ同シク請願ヲ為スノ必要アルベシ」ト建
議シタルニ会議ハ異口同音前記三名議員ノ發議ヲ協賛シ尚
ホ之レガ請願ハ同会ノ幹部ニ一任スル事ニ決セリ
尚ホ本件決議ニ対シテ聯邦政府及州政府ガ如何ナル回答ヲ
与フルヤハ今の確ニ之ヲ予知スルヲ得ザルモ、兎ニ角該決
議ノ趣旨ガ今後果シテ実行ノ域ニ達シ得ラルルヤ否ヤノ点
ニ付テハ甚ダ疑ハシキ廉ナキニアラザルモ、是ハ姑ク今後
ノ觀察ニ譲リ重ネテ報告スル所アルベシ
右不取敢及報告候 敬具

一九一 一月二十三日

在伯国野田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

伯国新聞ニ亜細亞移民誘入反対ノ社説掲載
セラレタル件

混血ハ望マシカラズト云ヘル所謂人種の偏見ヨリ出デタル
紋切形ノ迂論ニシテ尚ホ末段ニ記セル内国労働者保護説ノ
如キモ議論トシテハ甚タ妙ナルモ實際ニ於テハ伯国ノ農工
其他ノ産業發達ハ主トシテ外国移住民ノ勞力及技能ニ依ラ
ザル可ラザル次第ニ付右論説ハ直チニ本邦移住民ノ誘入ニ
影響スルコトハ無カルヘキ見込ニ有之候ヘ共既ニ屢々申進
置候通り伯国ニ於テハ異人種排斥ノ傾向ハ他ノ諸国ニ比シ
遙ニ微弱ナリトハ言ヘ一部ノ人士間ニハ夙ニ此ノ傾向伏在
シ何等カノ機會ニ触ルル毎ニ此ノ種ノ本邦移住民乃至亜細
亞人移住反対説唱道セラレ而シテ斯クノ如キ異人種排斥傾
向ハ今日幸ニシテ未タ多数者ノ雷同スル所トナラザルモ今
後数年乃至十数年ニ亘リ絶エズ此ノ如キ反対論カ繰返サル
ル間ニハ漸次一般伯国人ノ腦裏ニ惡印象ヲ与ヘ遂ニハ何時
トナク排日ノ氣焰モ高マリ来ルヘク今ヨリ之ニ処スヘキ方
法ヲ講究シ且実行スルヲ急務ト思考致シ候即チ今茲若干年
後ニハ伯国ニ於テモ排日熱ノ勃興スルヲ免レザル形勢ナル
ヲ看取致シ候上ハ之ニ対応スヘキ方策ハ此際屑ク見切りヲ
附ケテ本邦移住民ヲ伯国ニ誘入スルコトヲ全然断念スルカ
若クハ歐洲移住民ノ渡来杜絶シ支那人及印度人ヲスラ誘入

附屬書 右社説「移住民」詠文

通公第一九号

(三月十六日接受)

大正七年一月二十三日

在伯

臨時代理公使 野田良治(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

旧臘サンパウロ州農会ニ於テ亜細亞移民就中支那労働者ノ
誘入方ニ関シ中央政府及州政府ノ処置ヲ求ムル決議ヲナシ
其ノ反響カ直チニ二三新聞紙ノ反対説掲出トナリタル次第
ハ既ニ本月七日附通公第八号ヲ以テ及報告置候処從來本邦
人移植ニ関シテ反対ノ態度ヲ有スル「リオ、デ、ジャネ
イロ」市発刊ノ「ウ、イムパルシャール」新聞ハ先ツ昨二
十二日ノ紙上ニ一記者ガ聯邦植民局長ト亜細亞移民誘入ニ
関シテ交ヘタル談話ヲ記載シタル後本日ノ社説欄ニ「移植
民」ナル標題ヲ以テ別紙訳文ノ如キ亜細亞移民誘入反対説
ヲ掲載致シ候而シテ其ノ要旨タルヤ亜細亞人労働者ガ続々
当国ニ渡来スルコトハ低廉ナル勞力ヲ得ルト云フ点ニ於テ
農場主ニ利益ヲ与フルモ經濟上ヨリ見テ歐洲移住民ヲ驅逐
スルノ結果トナルヘク殊ニ人種構成上ヨリ見テ亜細亞人ノ

セント企テツツアル今日ノ好機會ヲ利用シ一層積極的方法
ニヨリテ盛ンニ邦人ヲ移住セシメ一日モ早ク其ノ根柢ヲ固
メテ到底抜ク能ハザルモノトナシ伯国ヨリ本邦人ヲ排斥ス
ルハ即チ伯国ノ産業ヲ衰微セシムル所以タラシメ実力ヲ以
テ排日論ヲ圧迫且粉碎スルカ二途ノ内孰レカ其ノ一ヲ選バ
ザル可ラザル義ト思考セラレ候ニ就テハ本邦当局者ノ指導
其ノ宜シキヲ得バ本邦人ハ伯国ニ於テ十分成功シ且發展シ
得ヘキコト既二十年ノ試験ヲ経テ立証セラルルニ至リタル
今日ナルヲ以テ此際成ルヘク第二法ヲ採リ從來ノ如ク単ニ
珈琲園労働移民ノ誘入ニ止メズ本邦資本家ヲ誘導シテ伯国
ニ於テ最有利ト認メラル諸種ノ事業ニ着手セシメ殊ニ大
面積ノ土地ヲ購入セシメ中産ノ自由植民ヲ初メトシ其他家
族移民ノ自由渡航並ニ場合ニヨリテハ独身移民ノ渡航ヲモ
奨励シ他面ニ於テ此等移住民ヲ成ルヘク速ニ伯国ノ言語風
習ニ同化セシメ何人モ争フベカラザル事実ヲ以テ本邦労働
者ハ出稼先ニ於ケル勞銀ヲ低落セシムルモノニアラザルコ
ト、産業發達上多大ノ貢獻ヲナスモノナルコト、同化困難
若クハ劣等ナル人種ニアラザルコト等ヲ証示セシムルコト
トセバ今回ノ新聞社説ノ如キ反対説ハ茲ニ全ク其ノ論拠ヲ

覆サレ自然ニ消滅致スヘク要スルニ今茲数年間ハ伯国ニ於ケル邦人發展ノ基礎ヲ固ムル為メ大ニ乗ズベキ好機會ト相信シ候別紙相添ヘ此段申進候 敬具

本信写送附先 在サンパウロ松村總領事

(附屬書)

別紙訳文

移植民(亜細亞移民誘入反対説)

千九百十八年一月二十三日 O Imparcial

新聞社説

昨日本紙ニ掲載シタル植民局長ノ談話ヲ綜合シテ政府ハ亜細亞移民ヲ奨励セントセルコト乃至少クトモ同局カ公然之ニ賛成セルコトヲ知ルベシ

珈琲ノ大栽培業ハ概シテ今日マデ農業多忙期就中珈琲收穫期ニ必要ナル労働者ヲ得ラルル様耕地ノ域内若クハ其ノ附近地ニ小作農民ヲ定着セシムル合理的手段ヲ講ゼザリキ大面積ノ土地ヲ所有シテ得々タルノ弊ハ今尚ホ珈琲地方ニ於ケル農業制度ノ根柢ヲ成セリ從ツテ自己ノ所有トナルヘキ地区獲得ノ望ナキ耕地ニ於テハ小作農民ハ売地ヲ求メテ自ラ地主トナリ得ヘキ資金ヲ作ルニ足ルヘキ間丈ケ留マルヲ

印度人ハ恐ラク欧米人ヨリモ一層進歩セル精神の完全ノ域ニ達セルナラン而シテ吾人ハ此ノ説ニ対シテ姑ラク其ノ当否ヲ論ゼザルモ印度人及支那人ガ泰西諸国ノ下級人民ニ比シ更ニ低劣ナル物質的生活ノ標準ヲ有スルコトハ争フヘカラズ亜細亞ノ努力ト歐洲ノ努力トハ同一ノ經濟場裏ニ共存スル能ハズ從テ其ノ結果タルヤ亜細亞人ノ為メニ十分ナルヘキ零碎ノ所要ハ到底歐洲労働者ノ生計ヲ維持スル能ハサルヲ以テ勢ヒ後者ノ退去トナル凡ソ国家ノ目的トスル所ハ低廉ナル努力ニアラズシテ労働者ノ幸福ヲ保障スル程度ニ払ハレタル努力ナラザルヘカラズ

今日専門ノ熟練職工ニアラザル手工労働者ガ一日伯貨十五「ミルレイス」ニ相当スル労働ヲ得ツツアル北米合衆国ハ其ノ經濟狀態ヲ一変シテ一人一日ノ労働僅ニ半「ミルレイス」ナル伯国「ゴヤース」州ノ經濟狀態タラシムルヲ欲セザルベキナリ

本件ニ関シ大耕地主ノ着眼点ハ国民ノ着眼点ト異ナルモ其ノ重ンズベキハ寧ロ後者ニ在リ

尚ホ政府ニ於テ先ツ第一ニ内国労働者ヲ導キ之ヲ業ニ就カシメ且之ニ注意スヘキハ常識ノ訓ユル所ニシテ而カモ亦愛

例トス斯クシテ絶エズ耕地ヨリ離退スル労働者ヲ補充スル為メ「サンパウロ」州政府ハ亜細亞移民輸入ノ決心ヲナシ十年間ニ日本人五万人ヲ誘入スル為メ契約ヲ締結シタリ

(訳註、四年間ニ二万人ノ誘入承諾ノ誤ナリ) 吾人ハ該契約成立ノ當時ニ於テ之ニ関スル吾人ノ意見ヲ發表シタリ

伯国ニ於ケル移民問題ハ単ニ之ヲ農業上ノ見地ヨリ講究スルニ止マラズ更ニ之ヲ經濟及人種の方面ヨリモ研究セザルヘカラズ

此等二方面ヨリ考查シテ亜細亞移民ハ好マシカラズ否寧ロ法律ヲ以テ制止スヘキモノナリ人種既ニ固定シ人口稠密ニシテ確然タル国民的相貌ヲ有スルニ至レル諸国ニ在リテハ努力ノ欠乏急迫セル場合ニ之ヲ補充スル為メ数千ノ亜細亞人労働者ヲ臨時ニ輸入スルコトハ左迄著シキ不便ヲ齎サザルナランモ我が国ノ如ク人種上今尚ホ多種ノ分子ヲ集メテ鑄解中ナル国ニ於テ継続的ノ移民誘入ニヨリテ黃血ヲ注射スルコトハ正ニ攻撃スヘキ禍害ニシテ決シテ官公的ニ之ヲ庇護スヘキニアラザルナリ然ルニ今ヤ植民局長ノ報道ニヨリ推断スルトキハ支那人印度人ノ誘入ヲ企圖シツツアリ支那人ハ西洋諸國中孰レニ於テモ歡迎セラレザル分子ナリ、

国心ノ命スル所ナリ、人口増殖ノ要素トシテ年々数万ノ移民入国ハ殆ド言フニ足ラザル少数ナリ、農業進歩ノ要素トシテモ外国移民ノ入国ハ何等ノ効能ナク寧ロ概シテ消極的ノ結果ヲ生ス何トナレハ露国、伊太利、洪牙利ヨリ伯国ニ渡来スル田舎漢ハ我が国ノ田舎漢ト同様ニ粗野ニシテ彼等ハ伯国人ニ耕作法ヲ教示セズシテ却テ伯国人ヨリ当国ノ農作法ヲ習得スル為メニ渡来スルモノナルヲ以テナリ

人種上ノ要素トシテハ好マシ然レドモ好マシキハ歐洲移民ノコトニシテ亜細亞移民ニハアラザルナリ
今ヤ移民事務ニ関スル常識ヲ回復スヘキ時期到来セリ若シ政府ニシテ農夫ニ与フヘキ土地、農具及種子ヲ獲得スルノ資力ヲ有スルトセバ先ツ第一ニ此等ノ便益ヲ内国人ニ許与スヘキナリ、自己所有ノ土地、労働用器具及種子ナキガ為メニ窮乏ノ淵ニ沈淪セル伯国農民アル間ハ此等ノ恩典乃至其ノ以上ヲ外国移住民ニ与フルハ不可ナリ。

一九二 一月二十五日

鈴木冲繩県知事ヨリ
中村通商局長宛

沖縄県人上里加那ガ伯国渡航ノ目的ニテ公文書ヲ偽造行使シタル件

保外親第二七〇ノ二号 (二月四日接受)

大正七年一月二十五日

沖縄県知事 鈴木邦義 (印)

外務省通商局長 中村 巍殿

移民公文書偽造行使ニ関スル件

十月五日付通送第六七九号ヲ以テ御通達相成候公文書偽造行使ニ関シ調査候処右ハ県下島尻郡具志川村字上江洲二四九上里加那(明治廿九年三月生)カ当時伯国サンパウロ在留中ノ旧知上江洲智維ノ呼寄ニ依リ同地ニ渡航セムトスルニ当リ自己ノ身元ヲ正確ナラシムル目的ヲ以テ具志川村役場ノ官用紙ヲ窃取シ同村長ノ印章ヲ盗用証明書ヲ偽造シ之ヲ智維ニ発送シタル事実判明致シ候得共目下上里加那ハ逃走所在不明ニ付一件記録ノミ検事局ニ送致候条御参考迄ニ右及報告候也

註 日本外交文書大正六年第一冊三六〇文書

一九三 一月二十五日

在サンパウロ松村総領事ヨリ
本野外務大臣宛

(附屬書)

一月二十一日附サンパウロ珈琲同業者会会頭ノ請願書訳文

共和国大統領閣下

珈琲同業者会ハ本月十二日幹部會議ヲ催シ歐洲戰爭ノ結果トシテ年々其度ヲ高メツツアル勞腕ノ欠乏ニ関シ一書ヲ閣下ニ呈シ以テ共和国政府ノ注意ヲ喚起センコトヲ決議セリ若シ夫レ近キ将来ニ於テ平和ハ克服セラレ皇制時代ヨリ我國ニ移入シ来リタル南歐羅典諸國ノ移民ガ復再ヒ来伯スルニ到ルヘキ望ヲ懷ク事ヲ得トセハ吾人珈琲業者ハ尚ホ相當犠牲ヲ敢テシ以テ現在ノ農業ヲ維持シ行クヲ得ヘシト雖モ事實ハ大ニ之レト反シ、今ヤ吾人ハ日々其明日ノ勞腕ヲ得ルノ保障無キニ困憊シ今復長ク耕地ヲ維持シ行ク事スラ甚タ覺束ナキ狀態ニ立チ到ラントシツツアルナリ即チ吾人ハ是迄吾人ガ伝統的ニ移民ノ淵源ト做シ来リタル伊太利、西班牙及葡萄牙ノ諸國ヨリ移民ヲ得ルノ望全ク是レ無キニ到レリ

由來此等諸國ニ取リテ移民ノ流出ハ其國人口増加ノ救済手段ニシテ又經濟上ノ均勢ヲ保ツ上ニ彼等ノ外出ハ寧ロ必要ト思料セラレタル所ナリト雖モ今ヤ戰爭ノ影響トシテ此等

サンパウロ州珈琲同業者会会頭ノ亜細亞労働者誘入方ニ関スル請願書訳報ノ件

附屬書 右請願書訳文

通公第二五号 (三月二十五日接受)

大正七年一月二十五日

在サンパウロ

総領事 松村貞雄 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

サンパウロ州ニ於ケル亜細亞労働者誘入運動

ニ関スル珈琲同業者会々頭ノ請願書訳文送附ノ件

本月十三日附通公第一五号拙柬ヲ以テ当サンパウロ州ニ於ケル亜細亞労働者誘入請願ニ関スル顛末及報告置候処今般該誘入運動ノ最後ノ決定タル珈琲同業者会会頭「アントニオ、ブラード」氏ガ同会ヲ代表シテ共和国大統領ニ提出シタル請願書発表相成候ニ付キ別紙ノ通り翻譯ノ上供貴覽候尚ホ右ハ当州農業者カ今回亜細亞労働者ヲ誘入セント企ツルニ到リタル動機及之レニ對スル将来ノ方針ヲモ窺知セシムルモノトモ被見受候間御覽相成度此段申進候 敬具

ノ諸國ハ最早之ヲ輸出スルコト能ハサルノ狀態トナレリ蓋シ歐洲諸國ハ戰乱ニヨリテ労働ニ最モ適當シタル何百万ノ壯丁ヲ失ヘリ故ニ戰後此等ノ諸國ハ其損失ヲ補ヒ又經濟力ノ恢復ヲ計ル為メ國民ノ移住ヲ嚴禁スルノ策ヲ講ズルニ到ルヤ明ナリトス

是迄多大ノ勞腕ヲ吾人ニ供給シタル西班牙ハ今次ノ大戰爭ニハ直接關係シ居ラズト雖モ然カモ今後吾人ハ長ク之レカ供給ヲ得ルノ見込無キニ到ルヘシ蓋シ同國ハ戰乱ノ影響トシテ俄ニ工業ノ発達ヲ見其貨幣ノ如キハ今ヤ英貨以上ノ価値ヲ有スルニ到リタレバ内國産業ガ從テ其勞腕ヲ要求スルハ又自然ノ勢ナリトス即チ西班牙労働者ハ今後長ク外出スル事ナカルベシ、況ンヤ交戰諸國ノ労働者ニ於テオヤ、故ニ今日吾人ハ最早亜細亞労働者ヲ誘入スルノ外他ニ方法ナキニ到レリ由來亜細亞労働者ハ奴隸制度ノ廢止セラレントスルニ先チ其ノ補充トシテ新開國又ハ殖民地ニ於テ誘入セラレタル者ニシテ今日ニ於テモ英仏ノ諸國ハ戰爭ノ為メ吸収セラレタル勞腕補充ノ為メニ之ヲ誘入シツツアルナリ、亦我國ニ於テモ帝制時代ノ政治家ハ九月二十日ノ法律及奴隸廢止運動ニヨリテ將ニ廢止ノ実行セラレントスルニ先チ

之ヲ誘入シ以テ此ノ社会的改革ガ我國ノ農業ニ与ヘントシタル一大打撃ヲ未だニ防ク事ヲ得タルナリ、千八百七十八年中「シニンプ」子爵ノ司宰セル一月五日ノ内閣ハ亜細亞労働者誘入ニ就テハ多大ノ興味ヲ有シタリ若シ「コテジツペ」男爵ノ司宰セル八月二十日ノ政府及「ジョアン、アルフレド」氏ノ総理セル三月十日ノ政府ガ伊太利人長期履行契約ノ主義ヲ採用シテ黒奴ニ代フルニ歐洲労働者ヲ以テスル事ニ決セザリシナラバ早く既ニ本問題ハ解決セラレタリシナルヘシ、然ルニ事情ハ下名ガ保守党内閣ノ農務大臣タリシ時ニ到リ漸ク四十万家族ノ契約ヲ履行スルヲ得タルガ如キ有様ナリシ若シ當時黒奴ノ代用者ヲ得ルト同時ニ労働分子ヲ増加スルコトニ努メザリシナラバ、我農業ハ如何ナル悲境ニ陥リタルヤ未ダ測リ知ルベカラザルナリ、然ルニ奴隸廃止後黒人が耕地ヲ離レ之レカ代用トシテ歐洲労働者ノ流入セシ個所ニ於テ農業ノ著シク発達セシ事ハ又容易ニ之ヲ觀ルヲ得ヘキナリ、

而シテ今日労働ノ不足ハ當時ニ比シテ決シテ大差ナキナリ蓋シ現今我農業ノ範圍ハ當時ニ比シテ遙ニ拡大セシニモ拘ラズ労働ノ不足ヲ補ヒ又同時に我建國上最モ便利トスル人

仍テ吾人ガ此ノ際閣下ニ冀望シテ止マザル所ハ労働者問題ニ関シテ一派ノ感情的議論ノ為メニ辟易セラレザランコトニアリトス、即チ吾人ノ間ニ於テモ亜細亞労働者ノ流入ニ対シ敵愾心ヲ抱ク者ナキニアラザルナリ彼等ハ亜細亞労働者ヲ非難スルノ理由ハ之ヲ有スルナルベシト雖モ此ノ際之レニ代ル者ヲ見出スコト能ハザルベシ勿論西洋諸國ニ於テ亜細亞移民ノ輸入ヲ希望スルハ最後ノ策ニシテ又将来モ同様ナルヘシ、彼ノ新見地域ヲ開拓スル場合又ハ其地ノ土人が他ノ事業ニ執掌シテ之レニ代ユル者ナクシテ他ニ好キ解決方法ヲ見出サザル場合ニ行ハレタル所ナリトス

歐洲諸國ハ熱帯地方ニ取得シタル殖民地ヲ開発スル場合ニ於テ亜細亞移民ノ誘入ヲ為シタルカ殊ニ英國殖民地ニ於テハ奴隸売買廃止後多數之ヲ誘入セリ、例ヘバ「モリス」島ノミニテモ十年間二十万ノ支那人又ハ印度人ヲ輸入シタルコトアリ又英領西印度諸島ニ於テハ亜細亞移民ハ亜非利加移民又ハ歐洲移民ニ比シ優等ナル成績ヲ挙げタリ、仏領「レユニオン」「ガダルーベ」及「マルティニカ」等ニ於テモ奴隸廃止後亜細亞労働者ヲ輸入シテ其農業ノ停滯ヲ救済スルヲ得タリ又玖瑠島カ過去ニ於テ繁榮ヲ極メタルハ全

種ノ誘入スル一挙兩得ノ目的ヲ達セシムル移民ノ誘入ハ當時ノ如ク可能ナルモノコレアラザルナリ、実ニ吾人ハ今ヤ移民國ヲ見出スニ窮セル者ナリ、今ヤ労働ハ我富源ヲ開発スル為メニアラズシテ寧ロ農業國トシテ其存在ヲ維持スルカ為メニ之ヲ要スルノ状態トハナレリ、故ニ移民誘入ニ関シ緊急適當ノ方法ヲ講スルニアラザレハ我輸出産物ノ発達ヲ期スル事又是レガ開発ノ方法ヲ改良スル事ノ如キハ全ク姑息ノ手段タルニ過キザルノ結果トナルヘシ最近下院議員「シンシナト、ブラガ」氏（聖州選出議員）ガ議會ニ提出セル建案ノ如キハ全共和國ニ亘リテ砂糖製造所ヲ建設シ以テ大ニ砂糖産出国ト競争スルニアリテ其計画タル頗ル良好ナルモノアリト雖モ若シ之レニ供給スル甘蔗ヲ耕ス農夫ナキニ於テハ折角ノ計画モ徒ニ画餅ニ終ルノ悲ナキ能ハザルバク又之レニ要スル機械モ回転スルコトナクシテ終ルニ到ルベシ

又農事信用発達シ大農小農ノ區別ナク凡テ其農業ノ発達ヲ助長スル為メノ機關ガ如何ニ完備スト雖モ若シ適當ノ時期ニ於テ種時ヲ為シ又收穫ヲ為ス者無キニ於テハ折角ノ設備モ何等用ヲナサザルモノトナルベシ

ク亜細亞労働者ノ恩恵ト云フヘク濠洲及「ニュー、ジールランド」ニ於テモ歐洲移民ヲ得ル事能ハザリシ時代ニ於テハ同シク亜細亞労働者ヲ輸入セリ、又「ジャヴァ」ニ於テハ千八百四十年中支那人ノ入國ヲ禁シタルモ後再ヒ之ヲ解禁スルノ已ムヲ得ザルニ到リ目下支那人ハ同島ノ有力ナル植民タルコト「ボルネオ」島ニ於ケルガ如シ

尚ホ秘露「エクワドール」ノ諸國モ同ジク此ノ方法ヲ採用シタルガ移民取扱人ニ於テ其ノ輸入ヲ濫用シテ宛然奴隸売買ノ變形ナルガ如キモノアラシメザリシナラバ千八百六十年中英國政府ニヨリテ禁止セラルルノ運命ニ到ラザリシナラン、當時英國ニ於テハ支那人ノ輸入ヲ以テ奴隸売買ノ變形ト做シ之レニ反対スル者多カリシガ今日ハ復、英領阿非利加殖民地ニ支那人ノ輸入ヲ見ルニ到リ千九百四年ノ労働輸入令（レーバー、イムポーテーション、オーディナンス）ノ如キハ「ウィフトウォーターランド」ノ鉞山二五万人ノ亜細亞労働者誘入ヲ許可セリ而シテ其結果甚ダ良好ナリト称セラルルニアラズヤ、

「アドルフ、ロッシ」ガ伊太利政府ノ命ニ依リテ調査シタル所ニ拠レバ南阿ノ英國殖民地ニ於テ亜細亞労働者ノ輸

入ハ益々増加シ行クノ傾向アリト云ヘリ、又「チーム」ハ英領殖民地ニ於ケル亜細亞労働者ニ関スル研究ヲ試ミ之レニ結論シテ若シ「トランスヴァール」ノ戦争後亜細亞労働者ノ輸入ナカリシナランニハ其産業ノ危機ハ之ヲ救済スルヲ得ザリシナラント言ヘリ

又今次ノ大戦争ハ英仏ノ両国ヲシテ東洋ノ労働補給場ニ向ッテ独リ其ノ戦時用人夫ノミナラズ其ノ農工業ガ要スル労働者ヲ需ムルノ已ムヲ得ザルニ到レリ殊ニ今日仏国ニ於テハ或ハ戦場ニ或ハ製造場ニ又或ハ開港場ニ「アナミット」人、阿非利加人、「トンキン」人又ハ支那人ノ別ナク何万ヲ以テ数フル者アルナリ、千九百十六年中英仏両国ガ輸入シタル亜細亞労働者ノ数ハ実ニ十一万四千ナリトス、去ル十一月ノ「グラフィック」誌ハ支那労働者ノ写真ヲ掲載シテ移民募集広告タルノ感アラシメタルガ彼等ハ運送船又ハ荷車ノ積卸ニ従事スル者ニシテ戦場ニ於テハ彼等ヲ支那「サムソン」ト綽名シ居ルナリ

労働者欠乏ニ際シ支那移民ヲ輸入シテ最モ著シキ成功ヲ成シタルハ米国西部ニ若クモノナシ勿論米国ニ於テモ支那移民ノ行動ニ関シテハ兎角ノ議論ナキニアラザリシト雖モ亜

フベシ然レトモ後日社会上及政治上ノ關係ハ同国ニ於テ彼等ヲ除外スルニ到リタレ共此ノ除外ハ合衆国ニ取リテハ多大ノ害ヲ来サザリキ蓋シ爾來世界ノ事情ハ同国ニ向ッテ各種白人種カ団体のニ流入スルヲ得セシメタレバナリ、而シテ後日此等ノ白人種ハ支那人ノ功績ニ酬ユルニ彼等ノ労銀ハ劣等ニシテ其ノ理想トスル所ニ対シ有害ナリトシテ排斥セリ

然レドモ亜細亞移民ノ誘入ヲ希望スル我国ニ於テハ決シテ斯クノ如キ事ナカルヘシ蓋シ彼我ノ間大ニ事情ヲ異ニシ亦何等之ヲ排斥スルノ要ナケレバナリ、恒ニ労働ノ欠乏ニ困憊セル我国ガ支那ノ如キ温順ニシテ低廉ナル労働者ノ来働ヲ拒絶スル事ノ如キハ決シテコレアルベカラザルナリ、又我国ト東洋トノ間ニハ合衆国ト日本トノ間ニ存在セルカ如キ優越權ノ争等はアルコトナケレバ吾人ハ此等ノ点ニ関シテハ何等憂慮スルノ要ナキナリ、況ンヤ今日ハ其ノ日米ノ間ニスラ調和ノ方法アリタリト称セラルルニアラズヤ、若シ夫レ目下航海ノ關係上多数ノ亜細亞労働者ヲ輸入スルコト能ハズトセバ今後戦争ノ終局ヲ俟ッテ大ニ之ヲ吸収スル為メニ予メ準備ヲ為シ置クノ要アルヘシ、千九百十八年度

細亞労働者反對ノ主ナル原動ハ濠洲ニ於ケルト同様愛蘭土人ノ競争ニヨルモノニシテ愛蘭人ハ亜細亞労働者ガ彼等ニ比シテ甚シク粗食シ又甚シク儉約ナルヲ見テ到底之レニ對抗シ得ザルヲ覺リ遂ニ之ヲ有害分子ト做シタルニ加ヘ労働組合ヲ動カシテ亜細亞労働者ハ労働ヲ低減スル者ナリトシテ之ニ反對セシメタルニ始マリ其ノ結果当初ノ労働問題ハ人種問題トナリ更ニ変シテ政治問題トナリタルナリ、加之日本人侵入問題、諸ハ太平洋制海問題等ガ益々此ノ政治問題ニ花ヲ咲カシメタルナリ

千八百七十六年中米国々々會ノ調査ニ拠ル時ハ若シ亜細亞移民ノ来働ナカリセバ加州ノ発達ハ斯ク著シキモノアラザリシナラン、然カモ此等移民ハ決シテ選振シタル良好分子ニハアラザリシナリ、而シテ此等労働者ノ来働ハ合衆国ノ彼ノ地方ニ四億万弗ノ富ヲ増加セリ又彼等ノ来働ナカリセバ同地方ノ移住ヲ便ニシタル鉄道ノ敷設ハ到底斯ク長距離ニ亘ラザリシナラントノ事ナリ、尚ホ千八百四十八年ヨリ千八百七十六年ノ期間ニ於テ加州ノ誘入シタル支那人ノ数ハ二十五万人ニシテ此等ノ労働者ハ爾來三十年間ニ合衆国ニ入リタル移民八百万人ノ為メニ利便ヲ提供シタルモノト云

ノ収獲予算ハ頗ル少額ニシテ今後吾人ニ一年ノ辛抱ヲ為サシムルニ足ルト雖モ其後ニ於テハ時期ヲ失セズ労働者ノ来伯ヲ計ル為メニ總テノ方法ヲ講セザルベカラス

仏国ノ或ル学者ハ近來民主的社會ガ唱道スル社會學上及道德上ノ誤謬ヲ批評シテ、民主主義ノ欠点トスル所ハ遠キ將來ノ必要ニ処スルノ策ヲ講セザルニアリト云ヘリ、然リ伯刺西爾ハ其ノ土地利用上此ノ仏國學者ノ言ヲ実行スルノ要アルヘシ、吾人ハ約一世紀以前ヨリ独立生活ヲ為シ、吾人ノ國ハ自然ガ之ニ与フルニ何物ヲモ惜マザリシ天恵國ニシテ土地氣候共ニ如何ナル生産物ニモ適シ又各種鉱物ニ富ムニモ拘ラズ其ノ割ニ進歩セズ又其ノ理想トスル繁榮ノ度ニ達スルニ甚タ遅々タルモノアルハ何ンゾヤ、要スルニ吾人ガ資本ト労働ノ恐慌ニ苦ム間ハ到底如上ノ理想ヲ實現スルコト能ハザルベシ、吾人ハ過去二十年間ニ於テ無用ノ役務又ハ不必要ニシテ且ツ繰延ベシ得ル工事等ノ為メニ産業奨励トシテハ一世紀以上ニモ亘リ得ヘキ多額ノ資金ヲ消費シタルニモ拘ラズ伯刺西爾ハ統計上他ノ人口面積ノ遙ニ僅少ナル小國ニ比シ尚ホ年々遜色アルニアラズヤ、故ニ吾人ハ最早彼ノ富源増加ノ一時的現象ヲ以テ徒ラニ妄想ヲ逞ウス

ルコトヲ止メザルベカラザルナリ、蓋シ戦後ニ於テ充分ナル勞腕ヲ得ザルニ於テハ到底今日ノ生産費率ヲ維持スルコト能ハズシテ我農工産ノ殆ンド全部ガ死刑ノ宣告ヲ受ケントスルニ到ルヘキ激烈ナル恐慌ヲ救済スルコト能ハザルベケレバナリ即チ低廉ニシテ潤沢ナル勞腕ヲ用意スルニアラザレバ砂糖、綿花、「カカオ」ハ勿論、護謨、珈琲等ノ良収獲ヲ得ル到底不可能ナリトス

現時ノ大戦争及是ニ因リテ来ル社会ノ大變動ハ人類ノ活動ニ一大頓挫ヲ来スヤ明ナレバ吾人ハ須ク此ノ機ニ乗ジ将来ノ方針ヲ定メ、来ルヘキ勞腕不足ニ對抗スルノ準備ヲ為サザルベカラスト信ズ

是即チ本会カ予メ此ノ場合ニ処スル為メニ独リ珈琲業ノ利益ノミナラズ我国一般ノ利益ニ鑑ミ敢テ此ノ書ヲ閣下ニ呈シ聯邦政府ハ単独ニ又ハ他ノ州政府ト協議ノ上今後航海状態ガ許スニ到ラバ更ニ継続ノ外國移民ノ誘入ヲ奨励スルノ目的ヲ以テ適當ナル措置ヲ執ラレンコトヲ請願スル所以ナリトス、尚ホ本件ノ実行ハ我国ノ将来ニ取リテ頗ル重大ナル問題ナル事ハ閣下ニ於テハ疾クト諒悉セラレ居ル所ト恐察ス、幸ニ閣下ガ此ノ請願ヲ受理セラレ適當ノ措置ヲ執ラ

ルニ於テハ閣下ハ我国将来ノ經濟的進歩ヲ確保スル偉大ナル事業ヲ為サレタルモノト云フベシ 謹言

千九百十八年一月二十一日

サンパウロ市

珈琲同業者会々頭 アントニオ、プラード

一九四 一月二十七日

在サンパウロ松村總領事ヨリ
本野外務大臣宛

伯国ニ於ケル沖繩移民ノ労働成績調査回報ノ件

通公第二八号

(三月二十五日接受)

大正七年一月二十七日

在サンパウロ

總領事 松村貞雄(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

客年十一月二十一日附通送第五九号貴信ヲ以テ沖繩県知事ヨリ照会ノ次第有之候趣ニテ当国ニ於ケル同県民ノ労働成績取調ノ上可致回報旨御申越ノ趣致敬承候

数年前迄当国在留沖繩県民ガ余リ良好ナル労働成績ヲ挙げ

キノ一事ナリトス

加フルニ近來沖繩県人会組織セラレ其幹部ト称セラル、モノハ頗ル真面目ナル分子之ヲ構成スルヲ以テ其感化又著シキモノアルベシ

又当地方ノ風土ノ状態、動植物ノ種類諸テハ衣食住ノ關係ニ到ル迄大ニ沖繩県ニ類似シ居ルモノアルニ加ヘ沖繩県民ノ多数ハ日本語ヲ能クセザルガ故ニ内地人トノ交際自ラ少ク寧ロ土人又ハ外國人ト接触スル機会多キヲ以テ早く伯国風ニ同化スルハ彼等ノ他県民ニ比シテ一大利便トスル所ナリ

尚終リニ特記スベキハ沖繩県民ハ当国ノ氣候ニ対スル抵抗力他県民ニ比シ著シク強大ニシテ能ク過激ノ労働ニ堪ユル点ナリ随テ彼等ノ古参者ハ前記ノ理由ニ依リ一時耕地ノ労働ニハ非常ノ不成績ヲ示シタルモ其後各地ニ散在シ獨立シテ農業ヲ営メル者ハ総ジテ年々著シキ發展ヲ遂ゲ目下成績大ニ見ルベキモノアリ

要スルニ沖繩県民ハ当初耕地ニ雇傭セラレタル時ニ於テ其指導宜シキヲ得バ日本移民中最良ノ成績ヲ挙げ得タル者ノ一ツタリシト云フベシ

ザリシノミカ彼等ノ間ニ逃亡者頻発シ剩ヘ彼等ハ労働者トシテ甚ダ不適當ナル者ノ如キ感ヲ与ヘタルハ当時沖繩県官憲ニ於テ現今ノ如ク移民ノ選択ニ注意ヲ払ハザリシモ其原因ナランガ当地出張移民会社代理人ガ未ダ經驗ニ乏シク彼等ヲ取扱フノ道ヲ知ラズシテ之ヲ他県人ノ間ニ分附シ雜居混勞セシメタルガ其主ナル原因ナリトス、由來沖繩県民ノ大多数ハ其言語風習ノ關係上一種ノ團結心ニ富ミ同県人ヲ慕フノ情盛ニシテ加フルニ一般他県民ハ兎角彼等ヲ一段劣等種族ノ如ク侮蔑スルノ惡習アリシ為メ、分離シテ他県人ノ間ニ雜居スル事ハ彼等ノ到底忍ビ得ザル所ナリトス、然ルニ移民取扱人ガ此ノ点ニ氣付カズ漫然之ガ配付ヲ為シ来リシ為メ、前記ノ如キ耕地逃亡ノ頻発ヲ来シタル次第ナルガ其後ニ至リ原因ノ判明シタル以來移民会社業務代理人モ特ニ此ノ点ニ注意スルコト、ナリタル上ニ新來移民ハ数ニ於テ沖繩県民其大部分ヲ占メ居ル為メ自然同一耕地又ハ其附近ニ集中スル事トナリタルヲ以テ其結果頗ル良好ニシテ客年中渡來セシ移民ノ如キハ僅ニ一家族ノ逃亡者ヲ出シタルノミニテ又労働大ニ挙ガリ今日ニ於テハ日本労働者中最良ノ一ツナル評判ヲ贏チ得タルハ彼等ノ為メ大ニ賀スベ

右及回報候 敬具

註 日本外交文書大正六年第一冊三六五文書

一九五 二月十五日

在伯国野田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

伯国新聞ノ亜細亞移民誘入反対説及善後策報
告ノ件

附屬書一 亜細亞移民誘入反対説

二 右反対説ニ関スル新聞社ノ小弥縫

三 伯国ニ於ケル本邦移植民ノ成績ニ関スル事実
弁明書

通公第三〇号

(四月十五日接受)

大正七年二月十五日

在伯

臨時代理公使 野田良治 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

ジョルナル、ド、コメルシオ新聞ノ本邦移

民反対説掲載及之ニ対シテ講シタル善後策ニ

関スル件

世界戦乱ノ為メ歐洲移民ノ渡伯殆ド杜絶シ努力欠乏ヲ感ス

ルコト益々甚シキニ至リタルヲ以テ当国人士中之ガ解決策トシテ支那移民誘入ヲ懲慚スル者アリ其ノ反響トシテ当国新聞紙上ニ亜細亞移民誘入反対説掲載セラレ就中「ア、ルア」紙ハ支那人及印度人ノ誘入ニハ反対ナルモ本邦移民ハ毫モ之ヲ排斥スルノ意ナキヲ示シ又從來本邦移民ニ反対ノ論説ヲ掲載シタルコト数回ニ及ベル「ウ、イムバルシャール」紙ハ不相変人種の僻見ノ色眼鏡ヲ通シテ本問題ヲ論議シ亜細亞移民ナル名称中ニ支那人及印度人ノ外、本邦移民ヲモ網羅シテ概括的ニ異人種誘入ノ不適當ナルヲ論シタルガ而カモ未タ本邦移民ニ対シテ正面攻撃ヲナスノ極端ニ奔ラザリシ次第ハ本年一月七日附通公第八号及同二十三日附通公第一九号拙信報告ニ就キ御承知相成リタル義ト思考致シ候然ルニ伯国新聞ノ泰斗ニシテ從來日本最眞ヲ以テ知ラレ前社長ハ其ノ廉ヲ以テ勲三等ニ叙セラレ旭日章ヲ賜ハリタル程ニテ未ダ曾テ本邦移民反対説ヲ唱道シタルコトナキ「ジョルナル、ド、コメルシオ」紙ガ客月三十日ノ同紙 *Varias Noticias* 欄ニ社説ノ性質ヲ有スル別紙甲号訳文ノ如キ亜細亞移民誘入反対説ヲ掲ケ支那人ト併セテ本邦移民ヲモ攻撃シ殊ニ全然事実ト相違セル流言譚説ヲ根拠トシテ

伯国ニ於ケル本邦移民ノ試験ハ失態的不結果ニ了レリト敢言シ結局本邦移民ノ団体的誘入ハ支那移民ノ夫レト同様ニ孰レモ立法手段ニ訴ヘテマデモ之ヲ遏止セザル可ラズトノ暴論ヲ逞ウシ且単ニ一回ノ掲載ヲ以テ足レリトセズ更ニ「黄疫」ナル標題ヲ附シテ之ヲ同日ノ該紙夕刊ニ再掲スルニ至リタル一事ハ決シテ輕々ニ看過スヘカラザル重大事件ト存ゼラレ候尤モ伯国人ノ見地ヨリ考量シテ本邦移植民ノ多数渡来スルコトハ社会政策上若クハ人種改良上伯国ノ将来ノ為メ果シテ有利ナルヤ否ヤハ大ニ研究ヲ要スル問題ナルヘキガ故ニ斯クノ如キ見地ヨリ出デタル異人種移民排斥論ヲ本邦側ヨリ反駁スルハ營ニ容易ノ業ニアラザルノミナラズ偶々筆戰ノ花ヲ咲カセ或ハ却ツテ排斥論ノ連発ヲ促スニ至ルヤモ計リ難ク殊ニ堂々タル一大新聞ノ社説ヲ取消サシムルコトハ仮令其ノ所論ガ全然謬説タル場合ニ於テモ不可能事ニ属スルヲ以テ同新聞社ニ対シ公然抗議スルコトハ却ツテ其ノ感情ヲ害シ今後ノ為メ我ニ不利益ヲ遺スノ虞アリト思考致候ニ付同社長「フェレイラ、ボテリヨ」氏トハ予ネテ知己ノ間柄ナルヲ幸ヒ本月一日「リオ、デ、ジャネイロ」市ニ出張同氏ニ面会シテ同氏ガ本邦ニ対スル多年

ノ伝説的友誼方針ヲ一朝ニシテ變更シ今回初メテ日本移民排斥ノ社説ヲ掲載シタルハ吾人ノ甚ダ遺憾トスル所ナリ殊ニ論ノ当否ハ姑ラク別問題トスルモ伯国ニ於ケル日本移民ノ試験ガ全然失敗ニ了リ其ノ成績頗ル不良ニシテ結局日本人ガ農業労働ニ不適當ナルコト実地証拠立テラレタリ云々ト言ヘルハ全然事実ニ相違セリ斯カル不実ノ報道ハ若シ之ヲ故意ニ掲載シタリトセバ同紙ハ謬言ノ責任ヲ負ハザル可ラズ若シ又事実ト輕信シ之ヲ論拠トシテ日本移民反対説ヲ起稿シタリトナサバ其ノ大新聞トシテノ威信ニ関スル所甚ダ大ナル所以テ非公式ニ諄々懇談致シ候処同社長ハ該論説ハ支那人誘入ヲ懲慚セル「アントニオ、ブラド」氏ノ建策ヲ攻撃スルヲ主眼トシタルニ拘ラズ担当記者ノ弄筆ニヨリ意外ニモ日本移民ニマデ眞向ヨリ側杖ヲ喰ハシタルヲ今更ニ驚愕セルモノノ如ク大ニ弁解ニ苦シメル模様ニ見受ケラレ結局同社ハ依然日本及日本人ニ対シ同情ヲ有シ排日等ノ考ハ毛頭之レ無シ今回ノ論説ハ支那移民誘入ニ反対スルガ主眼ニシテ成績良好ナル日本移民ノ渡来ニマデモ反対スル意志ハ無カリシ義ト諒察セラレ度シ就テハ最近ノ機会ニ於テ相当ノ修補ヲ行フベク尚ホ本件ニ関シ公使館ヨリ正誤

の記事ヲ御送附相成ラバ欣ンテ紙上ニ掲載スヘシト陳疏致シ候ニ付小官ハ此レ以上追窮シテ却ツテ先方ヲ憤ラシムルノ不利ナルヲ察シ該論說ノ修補方ハ之ヲ同社長ノ好意ニ信賴スヘク且今後斯カル不快ナル出来事ノ再現セザランコトヲ希望スル旨ヲ述ヘテ引取り候処翌二日ノ同紙

Varias

Noticias 欄ニ別紙乙号訳文ノ如キ記事ヲ掲ケ幾分前日ノ社説ヲ弥縫緩和スル所有之候尤モ右ハ未ダ十分満足スベキ程度ノモノニハ無之候ヘ共社説全体ヲ翻サシムルコトハ既記ノ理由ニヨリ不可能ナルヲ以テ右社長ノ誠意ヲ認メタル上ハ一先ツ此辺ニテ諒恕スルヲ穩当ト思考致シ候

尚ホ当国人中伯国ニ於ケル本邦移植民ノ成績ニ関シ誤報虚説ニ惑ハサレ居ル者尠カラズ候ニ付同新聞社長ガ本件ニ関スル正誤の記事ノ掲載ヲ欣諾スヘシト約シタルヲ幸ヒ此ノ機会ニ於テ夫レトナク右新聞社説ノ論拠ヲ覆スト同ニ本邦移植民真現状ノ概要ヲ一般公衆ニ周知セシメ置ク方得策ト存セラレ候ニ付仍チ別紙丙号訳文ノ記事ヲ葡文ニテ認メ同社長ニ其ノ掲載方ヲ依頼シタル結果本日ノ同新聞ニ全文掲出セラレ茲ニ益々同社長ノ誠意アルヲ認ムルト共ニ間接ナガラモ同新聞ヲシテ社説ノ不当ナリシコトヲ同紙上ニ於テ

策ヲ提唱セリ

氏ノ説ニ從ヘバ戰爭ハ歐洲移民ノ獲得ヲ困難ナラシムト言フモ此ハ議論ノ余地アル問題ニシテ歴史上ノ実例ハ却ツテ此ノ理論ヲ確認セサルナリ然レドモ兎ニ角氏ハ如上ノ想像ヲ基点トシテ從來我が國農作ノ發展ヲ維持増加スル為メ受収スルノ例ナリシ新勞力ノ供給ハ今後之ヲ得ル能ハサルベシト結論シ然ル後之ガ解決策トシテ多数ノ亜細亞移民即チ日本及支那移民ヲ契約スベシト提議セリ

此ノ考案ハ吉事ニアラズ又世間一般ハ此ノ考案ガ必ズシモ新シキモノニアラザルヲ知レリ此ノ問題ハ既ニ伯国ニ於テ大ニ論議セラレタルモ未ダ曾テ解決ヲ得タルコトナシ蓋シ常識ハ常ニ無法ニ遠カルノミナラズ從來企テラレタル試験ハ不体裁ナル失敗ニ了リタルヲ以テナリ

コンセレイロ「アントニオ、プラド」氏ハ黄色移民ハ低廉ナル多量ノ勞力ヲ吾人ニ与フベシトナセリ是レ誤謬ナリ全世界ノ經驗ハ低廉ナル該勞力ガ何物ヲモ構立セズシテ却ツテ該勞力ノ混入發展ハ之ヲ受容スル社会ノ組織ヲ害スルモノナルコトヲ証示ス

濠洲ニ於テモ、南阿ニ於テモ、合衆國ニ於テモ將又加奈陀

天下ニ告白セシムルノ目的ヲ達シ候
別紙甲乙丙号訳文相添此段及報告候 敬具

本信写送附先 在サンパウロ 松村総領事

(附屬書一)

別紙甲号訳文

亜細亞移民誘入反對説

大正七年一月三十日ジョルナル、ド、コメ

ルシオ新聞社説

「コンセレイロ」(帝政時代ノ称号、顧問官)――

「アントニオ、プラド」氏ハ從來常ニ画策及考案ニ富メル士ニシテ其ノ帝政時代ノ大臣及共和時代ノ「サンパウロ」市長トシテ氏ガ貢獻シタル忠勤ハ其等ノ計画ヲ案出スヘキ權威ヲ氏ニ附与シテ余リアリ然レドモ氏ガ今日創案スル所ハ総テ昔日ノ如キモノニシテ何等我が國ヲシテ不快ノ念ヲ感ゼシメザル底ノモノタランコトヲ希望セサルヲ得ス何トナレバ若シ責任アル人士ガ其ノ行フ所若クハ其ノ建策セントスル所ヲ熟考セサルトキハ仍チ世人ヲシテ不快ノ念ヲ抱カシムルモノナルヲ以テナリ、氏ハ過日珈琲業保護策主唱会ニ於テ吾人ガ認メテ以テ全然無法且不生産的トスル一方

ニ於テモ蒙古移民ハ単ニ攪乱ヲ醸生セルノミ黄色移民ハ勞銀ヲ低落セシメ勞働市場ヲ紊乱シ内國勞働者ヲ破滅セシメ健全ナル移民ヲ遠ザケ而シテ結局何等農業ニ益スル所ナシ支那人及日本人ハ幾クモナクシテ田園ヲ去リ都会及其近郊ニ集合シ来リ小規模ノ雜業ニ従事シテ内外國人ト競争ス伯國ハ其ノ自由主義ヲ以テ誇稱セル自由國ナリ故ヲ以テ日本人及支那人ハ個々ニ我國ニ渡来スルヲ得ヘク且歡迎セラハルヘシ然レドモ其ノ団体的移入ハ之ヲ許容スヘカラサルハ勿論進ンデ嚴重ニ之ヲ防遏シ且法律ヲ以テ之ヲ禁止スルノ方法マデモ執ラザルヘカラス

吾人ハ小職工及小傭僕ヲ要セス吾人ノ要スル所ハ農業勞働者ナリ

サンパウロ州ハ最近ニ於テ日本人ガ農業勞働ニ不適當ナリトノ実地驗証ヲ得タリ

故ニ「アントニオ、プラド」氏ニヨリテ慫慂セラレタル考案ハ実行シ得ラルヘキ解決法トシテ之ヲ論議スルコトヲ得ス否寧ロ之ヲ攻撃破壊スヘキナリ伯國ハ其ノ日本人タルト支那人タルトヲ問ハズ總テノ正直ナル活動ニ向ツテ開放サレタリト雖モ日本人及支那人ヲ大規模ニヨリ招致セントス

ル考案ハ大ナル誤謬ナルガ故ニ斯カル考案ハ幸ニシテ何等眞摯ナル考慮ヲ加ヘラルルニ至ラズシテ止ムナラン

(注意) 此ノ反対説ハ「黄疫」ナル標題ヲ以テ当日ノ同紙夕刊ニモ再掲セラレタリ

(附屬書二)

別紙乙号訳文

亜細亞移民誘入反対説ニ関スル新聞社ノ小弥縫

大正七年二月二日ジョルナル、ド、コメル

シオ雜報欄掲載

吾人ハ過日亜細亞移民ノ不適当ナルコトニ関シ記述シ且黃色人ノ無能ナルコトニ関シ所信ヲ吐露シタル際支那人ト日本人トヨ一様ニ評価セントスルノ意ナカリシコトハ明白ナリ今日日本ハ何等ノ最眞ナシニ世界最大國ノ一ニシテ其ノ人民ハ最進歩セル諸國ト相對シテ毫モ遜色ナシ但シ斯ク言ヘバトテ吾人ノ所説ハ「苦力」ノ招致ニ関シテ協議セラレタル所ヲ論ズルヲ以テ主眼トシタルニ拘ラズ大規模ニ日本人ヲ移入スルコトガ必ズシモ戦後ノ農業ノ為メ吾ガ國ニ適当ナリト言ハント欲スルニハアラザルナリ今日一大強國ニシテ且伯國ニ對シ顯著ナル同情ヲ有シ伯國モ亦誠意ヲ以テ其ノ同情ニ酬イツツアル日本トノ通商關係ノ發達ハ吾人ノ

者トシテ誘入セラレタル日本移民七百八十名ノ一団ハ其ノ選択宜シキヲ得サリシト伯國ノ言語ニ熟通セル適任ノ指導者無カリシ為メ最初ノ一年間ニ於テ予期ノ如キ成績ヲ与ヘサリシハ事実ナリ凡ベテ新ナル試験ニ於テ最初ヨリ好成绩ヲ期待スルハ無理ナルベシ

然レドモ移民ハ其後漸次伯國ノ氣候ニ慣レ且風習言語ニ通スルニ随ヒ成績良好ト変シ來レリ、

目下「サンパウロ」州ノ耕地主ニシテ相当ノ手心ヲ知りテ日本農民ヲ僱用セルモノハ日本人ノ勤勉、忍耐、清潔且敏捷ナルヲ承認スルニ躊躇セズ、伯國労働市場ニ勞力欠乏セル折柄トテ尚ホ多数ノ日本農民ヲ希望シツツアリ而カモ日本ハ成ルヘク耕地主ノ希望ニ応シ以テ直接間接ニ伯國ノ隆盛ニ貢獻セントノ好意ヲ有スルトハ言ヘ、戦争ニヨリテ勃興セル日本生産業ノ隆盛、渡航船賃ノ騰貴、汽船ノ大払底等ノ諸原因ニヨリ遺憾ナガラ伯國ニ向ッテ少数ノ労働者ヲ供給シ得ルニ過ギザル有様ナリ

第二、日本移住民ハ其ノ移住先キニ於ケル労働銀ヲ低落セシムトノ憂慮ハ其ノ根拠ヲ有セズ從來「サンパウロ」州ニ誘入セラレタル日本移住民ハ悉ク州立労働紹介局ノ仲介ニ

尊重シ且加勢セザル可ラザル所ナリ

然レドモ劣等ナル亜細亞人労働者即チ無能ニシテ且習熟ノ見込ナキ黃色人、顔色憔悴形容枯槁セル支那人ノ移入ハ極力之ヲ攻撃防遏スルヲ要ス

(附屬書三)

別紙丙号訳文

伯國ニ於ケル本邦移植民ノ成績ニ関スル事實弁明書

大正七年二月十五日ジョルナル、ド、コメル

シオ新聞掲載

日本移住民

伯國ニ於ケル日本移住民ノ成績ニ関シ事實ト全然相反スル謬リタル報道ニ基キテ不当ナル評価ヲナス者アルハ遺憾ナリ

移民問題ニ関シ議論スルコトハ吾人ノ任ニアラザルヲ以テ吾人ハ何等筆戰ニ入ルコトヲ避ケ只々世ノ有識者ガ既証ノ事實及争フ可ラザル眞実ヲ証拠トシテ穩健且公平ナル判斷ヲ下サンコトヲ希望スルカ為メニ伯國ニ於ケル日本移住民ニ関シ左記ノ事實ヲ一般公衆ニ周知セシメントス

第一、千九百八年ニ初メテ「サンパウロ」州珈琲園労働

ヨリ歐洲移住民ト同一ノ賃銀及同一ノ条件ニテ珈琲園ノ労働ニ従事セリ此ハ「サンパウロ」州政府当局者ノ立所ニ証明シ得ル争フ可ラザル事實ナリ、

尚ホ特ニ記述スヘキ一事ハ日本人ハ彼等ヲ誘入スル移民会社ノ正當ニシテ且機宜ニ適シタル斡旋ニヨリ条件比較的良好ナル耕地ヲ扱ヒ且衛生設備並其他ノ待遇ニ関シテ改善ヲ要求スルノ便宜ヲ有スルコトナリ而シテ大抵ノ耕地主ハ其ノ必要ヲ認メ此等労働者ノ正當ナル要求ヲ容レタルガ故ニ斯クノ如ク日本人ノ要求ニ基キタル改良ハ歐洲移民ノ利用スル所トナリ彼等ハ勿論日本人ト均等ノ利益ヲ享受セリ、

第三、日本人ハ幾クモナクシテ田園ヲ去リ都会及其ノ近郊ニ集合シ來リ小規模ノ雜業ニ従事シテ内外人ト競争スト言ヘルハ確実ニアラズ

從來「サンパウロ」州ニ誘入セラレタル日本移植民ノ大多數即チ少クモ其ノ七割乃至八割ハ現ニ田園ニ於テ農業ニ從事中ナリ、新來者ハ概シテ二年若クハ三年間珈琲園ニ於テ能ク其ノ契約ヲ守リテ労働シ而シテ耕地ニ於ケル契約ヲ履行シ了リタル後小資本ヲ蓄積シタル者ハ小面積ノ土地ヲ購入シテ小地主トナリ玉蜀黍、黍、米、豆等ヲ栽培シ以テ伯國

ノ生産増殖ニ貢献セントシツツアル者既ニ數百家族ニ及ベリ尤モ日本人ノ生産率ハ其ノ人数未タ少キガ為メ大ナル能ハズト雖モ其ノ一人毎若クハ一家族毎ノ生産貢献率ハ他外国人ニ比シ優ルトモ劣ル所ナカルベシト信ズ

斯カル現象ハ当該地方ノ發展上及広大ナル伯国領土ノ植民上頗ル有利ナルモノニアラザルナキカ、

第四、移植民トシテ伯国ニ渡來スル日本人ハ本国ニ於テ小地主ノ階級ニ屬スル農民ニシテ比較的教育アリ從テ文字ヲ書読スル能ハサル者皆無ナリ其ノ故ハ日本移民ニシテ家族ヲ同伴シ渡伯セント欲セバ避クヘカラサル渡航費用トシテ一家族ニ付少クモ英貨五十磅ヲ自己ノ懷中ヨリ支払ハサル可ラズ斯クノ如キハ比較的余裕アル者ニシテ初メテ能ク為シ得ル所ニシテ貧困ナル日傭労働者ハ到底渡伯ニ必要ナル資金ヲ算段スル能ハザルヲ以テナリ、

第五、尚ホ序ナガラ徒ラニ遠隔地ニ多數ノ日本臣民ヲ撤布スルヲ以テ國家ノ發展上不利益ナリト思考セル日本政府ハ移民出国取締ノ權ヲ其ノ手中ニ収メ居レルヲ以テ政府ノ許可ナクシテ外國ニ渡航スルコトハ不可能トナリ居レリ從テ外國ガ本邦移植民ノ真価ヲ認メテ之ヲ歡迎スル場合ニハ

日本政府ハ一面帝國生産業ノ利益ト他面出稼先ニ於ケル移民ノ保護トヲ慎重ニ考慮シタル上移植民受取國トノ善良關係ヲ維持シ且益々之ヲ發達セシムル目的ノ為メニ精選セル且外國ニ於テ歡迎セラルル移住民ノ出國ヲ受働^{パツングリ}の二許可スルニ止マル、日本ハ未ダ曾テ外國ニ向ツテ他働^{アクトイグリー}の二移住ヲ奨励シタルコトナシ

若シ日本移住民ノ成績不良ナルヲ挙示スル事實現存スルアラシカ之ニ對シテ執ルヘキ善後方法ヲ先ツ第一ニ考量スルモノハ正ニ帝國政府ナルベシ(完)

一九六 二月二十二日

在サンパウロ松村總領事ヨリ
本野外務大臣宛

サンパウロ州衛生局長ノ排日演說ニ関シ報告

ノ件

公第三九号

(四月二十五日接受)

大正七年二月二十二日

在サンパウロ

總領事 松村貞雄(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

本月二十日当地「ブタンタン」蛇毒採取所ニ於テ附屬藥材

植物園創設式挙催有之候処同式場ニ於テ「サンパウロ」州衛生局長「アルテューロ、ネーイヴァ」氏ハ官命ヲ帶ビテ公式演說ヲ試ミタルガ其中、努力ノ欠乏ニ論及シ現時ノ勞腕ノ不足ハ外國移民ノ誘入ヲ以テ之ヲ救済シ得ヘシト雖モ遠ク我國ノ將來ヲ慮ル時ハ彼ノ同化シ難キ日本人又ハ印度人ヲ誘入スル事ハ我國ノ為メニ決シテ得策トナス可ラス蓋シ彼等ハ吾等伯刺西爾人ニ取リテハ一種ノ病毒タルヲ免レザレバナリ又彼等ハ彼ノ惡食物ノ如ク一度食スル時ハ容易ニ消化セズ然リトテ之ヲ吐キ出ス訳ニモ行カザルモノタラザルヘカラザレバナリ、故ニ伯刺西爾ハ到底斯ル人種ノ誘入ニ反對セザルヘカラザルナリ、仍テ吾人ハ外来移民ノ誘入ヨリモ今後一層内國民ノ衛生ニ注意シ嬰兒ノ死亡ヲ防避スル等各種ノ方法ヲ講スヘキナリト論シタルニ名士ノ議論トシテ同局長ノ演說ハ「サンパウロ」市ノ新聞ハ勿論「リオ」市ノ新聞モ悉ク之ヲ掲載致候然ルニ予テ在伯公使館ノ日本移民ニ對スル弁明書ニ對シ再度排日說ヲ唱ヘタル「リオ」市「ウ、イムパルシヤル」新聞ハ本月二十四日ノ紙上ニ於テ前記衛生局長ノ演說ノ一部ヲ布衍シテ内國人保護ノ必要ヲ論シ復タ日本人誘入反對說ヲ試ミ候、

「サンパウロ」州衛生局長ガ州統領ヲ始メ諸官憲及ヒ当地上流社会ノ數多列席セル式上敢テ斯クノ如キ演說ヲ試ミタルハ惟フニ当州農商務長官ガ州統領ニ提出シタル大正六年度事務報告中日本移民誘入ノ一事ニ関シ「本官ハ本年中五千人ノ日本移民ノ誘入ヲ許可セルモ主義トシテハ此ノ同化シ難キ人種ノ誘入ヲ賛成セザルモノナリ」云々ト謂ヘルニ合致セシメント企テタルト同時ニ過般來勞腕ノ欠乏上当州有力ナル実業家連ガ其筋ニ提出シタル亜細亞移民ヲ誘入セントスル建白書ハ多少現州政府ノ感触ヲ害シタルノ感ナキニアラズ、時偶々來三月一日ノ總選舉ヲ扣ヘ政界色メキ居ル際現州政府党ノ為メ努力ヲ示シタルノ傾向ナキニアラズ尚ホ衛生局長ハ予テヨリ本邦移民ニハ寄生蟲病ヲ有スル者多數アリト称シ本邦移民輸出港ニ於テ伯国医ヲシテ健康検査ヲ為スノ必要アリトシ本邦移民組合ノ出費ヲ以テ自己ノ縁故アル医師ヲ本邦ニ駐在セシメントスル計畫ヲ企図スルノ意アルヤニ聞キ及ヒ居ル処過般委員ヲ派シテ「イグアベ」地方ニ於ケル糞便検査ヲ行ハシメ且ツ自身出張取調ヘタル結果寄生蟲病ハ本邦人ニ少ク却テ伯國人ニハ九十六%ノ寄生蟲病アルコトヲ発見シタル趣ニテ寄生蟲病ハ日本人

排斥ノ理由トシテ甚ダ薄弱ナルモノトナリ居レリト云フ
此段及報告候 敬具

本信写送付先 在伯代理公使

一九七 二月二十五日 本野外務大臣ヨリ
在サンパウロ松村総領事宛

沖繩県人上里加那ノ公文書偽造行使ニ関シ

沖繩県知事ヨリノ報告通報ノ件

通送第九号

本件ニ関シ客年八月十二日付通公第九二号ヲ以テ御申越ノ
趣了承右ハ沖繩県知事へ移牒致置候処今般右ニ関シ同県知
事ヨリ別紙^(註2)写ノ通報告有之候ニ付委細右ニテ御了知相成度
此段申進候也

註1 日本外交文書大正六年第一冊三五四文書

2 別紙ハ前出沖繩県知事来信一月二十五日付保外親第二七〇
ノ二号ノ写ナリ

一九八 三月一日 在伯国野田臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

伯国新聞掲載ノ亜細亜移民誘入反対説報

ノ件

トテ流石ニ本邦移民ノ成績不良ヲ云々スルコトハナカリシ
モ依然トシテ文明ノ系統、言語、宗教、人種及風習ヲ異ニ
セル日本人ノ移住ハ好マシカラズ殊ニ其ノ離婚ハ伯国ノ人
種改良上有害分子ヲ構成スルヲ以テ本邦移民ハ仮令農業勞
働者トシテ適當ナルニモセヨ之ヲ排斥セザル可ラズト論シ
恰モ当館弁明書中故ラニ議論スルヲ避ケタル人種的感情論
ヲ提ゲ来リテ反対ノ一矢ヲ試ミタルモノニ有之其ノ所說中
低賃ニ甘ンズル本邦移民ハ歐洲労働者ヲ驅逐スト言ヘル謬
見ニ対シテハ多少弁駁ノ余地ナキニアラザルモ本邦移民渡
来スルモ何等勞銀低落ノ因ヲ成サザル所以ハ既ニ「ジョル
ナル、ド、コメルシオ」紙上ニ於テ説明シタル通りナレ
バ今更之ヲ繰返スモ無益ナルベク且元来此ノ種ノ新聞論說
ニ対シ一々反駁若クハ弁明ヲ試ミ徒ラニ世人ノ注意ヲ鋭敏
ナラシムルハ却ツテ不得策ニ可有之過般「ジョルナル、
ド、コメルシオ」新聞ノ社説ニ対シ当館ヨリ弁明書ヲ送り
テ之ヲ同紙上ニ掲載セシメタルハ畢竟同紙ノ大新聞タル地
位及從來ノ対日態度ニ鑑ミタル結果已ムヲ得ズ執リタル特
別ノ手段ニ外ナラズ候ニ付今回ノ反対説ニ対シテハ別段弁
駁ノ方法ヲ講ゼズ従前ノ通り其儘ニ打棄テ置キ單ニ御参考

附屬書 右反対説「黄色人ノ侵入」訳文
通公第三五号 (五月二十一日接受)

大正七年三月一日

在伯

臨時代理公使 野田良治(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

「ウ、イムバルシヤール」新聞所載亜細亜移

民誘入反対説訳報ノ件

当国新聞ノ泰斗「ジョルナル、ド、コメルシオ」ガ本邦
移民反対説ヲ掲載シタルニ対シ当館ノ執リタル処置ニ関シ
テハ客月十五日附通公第三〇号拙信ヲ以テ逐一申進置候処
同紙ガ本邦植民成績ニ関スル当館ノ事実弁明書ヲ掲載シタ
ル翌日(二月十六日)ノ「ウ、イムバルシヤール」新聞紙
上ニ「マリオ、ブランド」(M. Brant)ナル者ノ署名セル
別紙訳文ノ如キ亜細亜移民排斥論又モヤ掲載セラレ候
「ウ、イムバルシヤール」紙力從來頻リニ本邦移民誘入ニ
反対セル社説及寄書ヲ掲載シタルコトハ既ニ数回及報告置
タル次第モ有之其ノ論旨ハ概ネ大同小異ニシテ全ク人種の
偏見ニ基ケルモノニ有之今回ハ当館ノ弁駁モアリタルコト

マデニ其訳文ヲ貴覽ニ供スルニ止メ候

別紙相添此段申進候 敬具

(附屬書)

別紙訳文

黄色人ノ侵入

千九百十八年二月十六日 O Imparcial 新聞

所載

日本公使館ハ伯国ニ於ケル日本移住民ニ反対シテ新聞紙界
ニ現出シタル抗論ニ応酬スルニ決シタルガ而カモ其ノ答弁
ハ單ニ抗論ノ若干点ニ対スルモノニシテ其ノ主要点ニ対シ
テハ緘黙セリ
泰西諸国ニ於ケル亜細亜移民ハ既ニ試験セラレ且政治家、
經濟学者及社会学者ニヨリテ判断セラレタリ該移民ハ好マ
シカラザルモノニシテ此等諸国ノ政府ハ仮令之ヲ排拒セザ
ル迄モ而カモ決シテ之ヲ奨励スルガ如キコトナシ亜爾然丁
共和国ノ憲法ハ国会ニ対シ歐羅巴移民ヲ奨励スルノ權能ヲ
附与スルニ止メタリ亜国ノ教授「マヌエル、エストラダ」
ハ其著「聯邦ノ權利」中ニ「我が国ニ於テ政治ヲ施スハ即
チ植民スルニアリテフコトガ若シ真理ナランニハ適當ニ植

民セザレバ折角政治ヲ施スモ其ノ甲斐ナシト言フコトモ亦正確ナリ故ニ憲法ハ他ノ立法ニ欠ケタル此ノ不備ノ点ヲ予想シ有ラユル種類ノ移住民ヲ盲目のニ奨励スルノ權限ヲ国会ニ附与スルコトナク歐洲移民即チ開化セル移民、白人移民ヲ奨励セシムルモノナリ」ト言ヘリ

無慮一億人ノ人種の一大集團ニシテ我が国ニ於ケルガ如ク黃血ノ接種ヲ憂慮スヘキ理由有セザル北米合衆國ハ客年二月五日ノ新移民法ヲ以テ下ノ如キ規定ヲ採用セリ

(訳註 此所ニ太平洋及亜細亞ノ地図上ニ於テ緯緯度ヲ以テ区劃シタル範圍内ヨリノ移民ハ其ノ入國ヲ禁止スル法文ヲ掲ケタルモノ之ヲ略ス)

世界全圖ヲ開ケバ此ノ煩雜ナル区画中ニハ國際狀況ニヨリ斯クノ如キ殊別界ニ編入スルヲ許サザリシ日本及波斯ヲ除キタル以外ノ全亜細亞及其ノ諸島嶼ヲ包含セルコトヲ見ルベシ

日本ハ種々ノ点ニ於テ其ノ進歩ノ程度伯國ニ優レル所アルハ爭フヘカラズ日本ハ賞讃スヘキ美德ヲ有スル一國ニシテ他國民ノ尊敬ニ値ス然レドモ其ノ文明ハ吾人ノ文明ト其ノ起原、伝説、進路及方向ヲ異ニス言語ノ差異、宗教ノ相反、

ヲ以テナリ所謂文明ノ意義ハ此ノ一事ニ在リテ存ス

珈琲採取ノ為メ亜細亞人ノ誘入ヲ可トスル論者ハ恰モ伯國ヲ以テ珈琲栽培業ノ附屬物ト見做セルカ如キ態度ヲ以テ行動ス而カモ此ノ見解ハ珈琲産地ヲ除キタル以外ノ我が國ノ大部ニ於テ同意スベカラザル所ナルノミナラズ「サンパウロ」州トシテモ亦同意シ難キ所ナリ

該農作(即チ珈琲栽培業)ノ方法ハ植民地開發ノ方式ニ類似ス、「カメルン」ニ於ケル独逸人及「コンゴ」ニ於ケル白耳義人ハ現在及將來ノ社会上及人種上ノ狀態ヲ毫モ慮ルコトナクシテ只管土地ヨリ最多量ノ收益ヲ得ンコトヲノミ心懸ク然リ而シテ珈琲産地ハ(植民地ニアラズシテ)我が國內ニ存在シ我が國ノ一部我が郷土ノ一片ナリ「サンパウロ」州人自身ト雖モ歐洲人ノ良血ヲ混合シテ漸次純良化シツツアル同州ノ強壯ナル人種ノ將來ガ黃色人ノ侵入及難婚ニヨリ乱サルヲ平然トシテ袖手傍觀スヘカラザルナリ亜細亞移民ニ関シ公權部(訳註 政府又ハ國會ノ為スベキ所ハ之ヲ奨励スルニアラズシテ却ツテ之ヲ禁止スルニアリ

マリオ、ブランド

人種ノ不同及風習ノ相違ハ完全ナリ
我が國ノ如ク今尚ホ經濟上及人種上ノ形成期ニ在ル國ニ於テハ亜細亞移民ハ重大ナル性質ヲ有スル二様ノ攪乱ヲ齎ラス

第一ニ亜細亞移民ハ歐洲移民ヲ驅逐ス、亜細亞人労働者ノ生活標準ハ歐洲労働者ノ夫レニ比シテ低下ナリ道德上ノ見地ヨリ劣等ナリトス可ラザルモ經濟上ノ見地ヨリ見テ劣等ナルハ爭フ可ラズ亜細亞人ハ歐洲人ノ衣食ニスラ足ラサル賃銀ヲ以テ満足ニ生計ヲ維持ス其ノ何レノ地タルヲ問ハズ歐洲人ノ競争者トシテ亜細亞人労働者ガ現出スル所ニハ忽チニシテ労働ノ均衡ヲ失シテ其ノ低落ニ傾キ之ガ為メ歐洲人ヲ離退セシムルヲ見ル而シテ此ノ事實ハ大規模ノ農業及大收穫ヲ処理スル必要アル一大地主ノ為メニハ好都合ナルヘキモ國家ノ為メニハ斷シテ然ラザルナリ蓋シ一文明國ノ理想ハ些少ノ労働ヲ受クル勞力ヲ有スルコトニ存スル能ハズ否、寧ロ反對ニ田園及都會労働者タル住民ガ漸次其ノ生存狀態ヲ改善シ其ノ生活標準ヲ高上シ且現在ノ物質上及智識上ノ進歩ノ恩沢ノ一部ニモ浴スルコトヲ得ンガ為メ毫モ不足ナク労働者ニ賃銀ヲ支給スルコトヲ期セザル可ラザル

一九九 四月六日

中村通商局長ヨリ
鈴木沖繩県知事宛

在伯國沖繩縣移民ノ労働成績取調ノ結果回報

ノ件

通送第二二一四号

本件ニ関シ客年十一月十日附保外親第一二二二号ヲ以テ御照會ノ次第有之候ニ付在サンパウロ帝國總領事ニ右取調方通達相成候処今別紙^(註)寫ノ通り同總領事ヨリ回報有之候条此段申進候也

註 別紙ハ前出一月二十七日附在サンパウロ松村總領事報告通告第二八号寫ナリ

二〇〇 五月一日

後藤外務大臣ヨリ
在サンパウロ松村總領事宛

サンパウロ州衛生局長ノ排日演說ニ関シ訓令

ノ件

通機密送第二号

サンパウロ州衛生局長ノ排日演說ニ關スル件

本件ニ関シ本年二月二十二日附公第三九号ヲ以テ御報告ノ趣聞悉サンパウロ州衛生局長ガ公式演說ニ於テ本邦移民ノ

誘入ニ反対ノ意見ヲ吐露シタルハ甚ダ遺憾ノ次第ナルモ之ニ対シ表面ヨリ抗争スルコトハ却テ反感ヲ誘発スルノ掛念可有之ト被存候ニ付貴官ニ於テハ今後同氏ハ勿論其他州政府当路者ト平常接触セラレ排日ノ誤解ヲ打消スコトニ御尽力御配慮相成度此段申進候也

二〇一 五月十六日 在伯国野田臨時代理公使ヨリ
後藤外務大臣宛

伯国新聞ノ本邦移民反対説掲載防止方ニ関シ

外務長官ト懇談ノ件

通機密第一号 (八月八日接受)

大正七年五月十六日

在伯

臨時代理公使 野田良治 (印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

伯国新聞紙ノ本邦人移住反対説掲載防止方ニ

関シ外務長官ト懇談シタル件

当国人中人種の偏見ノ為メ本邦人ノ多数伯国ニ来住スルヲ嫌忌スル者ナキニアラズ殊ニ当国新聞紙中屢々紙上ニ本邦人移住反対説ヲ掲載シタルモノアルコトハ其ノ都度及報告

ザル限り表面ヨリ官憲ノ命令若クハ威力ヲ用ヒテ之ヲ差止ムル如キコトハ到底行ハレ難キコト勿論ニ有之候ヘ共目下伯国ハ戦争状態ニ在リテ戒嚴令ヲ施行シ、政府ハ新聞記事検閲ヲ行ヒ世人ヲ驚動セシムル風説、軍事上ノ処置及國際問題ニ関スル記事ニシテ政府ニ於テ差支アリト認ムルモノハ其ノ掲載ヲ禁止スルコトヲ得ル権能ヲ有シ且國際問題ニ関スル記事ノ検閲ハ外務省ニ於テ之ヲ行フ筈ナルト同時ニ不日入港スヘキ布哇丸ヲ初メ「タコマ」丸及移民輸送船若狭丸等引続キ伯国港ニ到着シ以テ反対説掲出ノ機会ヲ造出セントスル際ナルヲ以テ小官ハ本日ノ定例接見日ニ於テ外務長官ト会談シ話頭偶々日伯間本邦汽船航路ノ現況ニ転入シタル序ヲ利用シ曩ニ「ウ、イムパルシアル」及「ジョルナル、ド、コメルシオ」両紙ガ掲ケタル如キ譏諷のノ本邦移植民反対説繰返サルコトアリテハ両国ノ親交上甚ダ不利益ナルニ付何トカ之ヲ防止スル方法ナカルベキカト懇話のニ相談ヲ試ミ候処外務長官ハ自身ハ元来日本移民賛成者タル旨ヲ告ゲタル後サンパウロ州ニ於ケル日本移民ノ成績良好ニシテ耕主ヲ満足セシメツツアルコトハ予既ニ之ヲ聞知シ居リ且今後最重要ナル責任ノ地位ニ立ツヘキ一耕

置キタル通りニシテ此ノ種ノ排日傾向ハ未ダ常習の性質ヲ有セズ寧ロ間歇のモノト評スル方適當ナルヘク即チ移民ヲ搭載セル本邦汽船ノ著伯、本邦移植民誘入ニ関スル新計画ノ発表又ハ漏洩若クハ排日煽動ヲ目的トセル北米製活動写真ノ演示等比較的新奇ナル何等カノ機會生ズル毎ニ所謂間歇のニ発作スルモノニ有之現ニ本年一、二月ニ亘リテ「ウ、イムパルシアル」及「ジョルナル、ド、コメルシオ」紙ガ本邦移民攻撃論ヲ掲ケタル動機ハ一月二十三日附通公第一九号及二月十五日附通公第三〇号等ヲ以テ及報告置キタル通り全ク當時当国官民ノ間ニ研究中ナリシ支那移民誘入計画ノ発表ニ基クモノニシテ亜細亞移民ナル名称ノ下ニ支那人ト混同セラレタル本邦移植民ハ前者排斥ノ側杖ニ打タレ少カラザル迷惑ヲ蒙リタルモノニ有之候而シテ此ノ種ノ排斥論ガ新聞紙上ニ於テ頻々繰返サルルコトハ營ニ本邦移植民事業ノ發展ニ大害アルノミナラズ延イテ日伯兩國ノ親善關係ヲ礙ゲルコト必然ナルニ付出来得ル限り之ヲ防遏スルコト得策ト存ゼラレ候処常時ニ在リテハ出版及言論ノ自由ハ伯国憲法ノ明文ニ從ヒ何等ノ制限ヲ蒙ラザルヲ以テ新聞買収其他ノ方法ヲ用ヒテ裏面ヨリ阻止セ

主(次期大統領「ロドリゲス、アルヴェス」氏ヲ指スモノナラン乎)ハ日本移民誘入ニ賛成ナリト明言セリ然ルニ今後益々兩國ノ關係ヲ密接ニセント努メツツアル際新聞紙上ニ此ノ種ノ論說ヲ掲載スルガ如キハ甚ダ面白カラザル所ナリ但シ右両新聞ハ孰レモ独立紙ナレバ政府ノ御用新聞ト同様ニハ取締リ困難ナルヘキモ幸ヒ而紙ノ主筆ハ一人ハ予ノ政友、他ノ一人ハ元政友タリシ特別ノ關係アル間柄ナレバ予ヨリ婉曲ニ忠告ヲ試ムベシトノ約諾ヲ与ヘラレ候、右外務長官ノ内々ノ忠告ガ果シテ如何ナル程度ノ効果ヲ与フベキカハ之ヲ今後ニ徴スルノ外ナク候ヘ共少クトモ政府ガ新聞検閲權ヲ有スル間ハ此等新聞ヲシテ排日の論調ヲ差控エシムルコトヲ得ヘキカト期待セラレ候ト同時ニ兎ニ角外務長官ガ本件ニ関シ頗ル好意ヲ以テ我が希望ヲ容レ排日の論說ノ掲載防止ノ為メ適當ナル方法ヲ執ルヘキ旨快諾セラレタルハ大ニ感賞ノ価値可有之ト存ジ候此段申進候 敬具

本信写送附先 在サンパウロ 松村総領事

二〇二 七月十三日 在伯国野田臨時代理公使ヨリ
後藤外務大臣宛

伯国ニ中国移民誘入ニ関スル件

通公第一〇一号 (七月二十五日接受)

大正七年七月十三日

在伯

臨時代理公使 野田良治(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

サンパウロ州ニ於ケル農業労働者ヲ欧洲其ノ他諸国ヨリ十分ニ得ル能ハザル形勢ニ鑑ミ客年末同州農会ガ支那移民誘入ヲ可トスル決議ヲナシタルコト及之ニ対スル聯邦政府当局者ノ意嚮並ニ新聞紙ノ反对説掲載ニ関シテハ本年一月七日附通公第八号、同月二十三日附通公第一九号及同三十日附通公第二一号拙信ヲ以テ逐一及報告置候処リオ、デ、ジヤネイロ市ニ本部ヲ有スル伯国農会ノ客月十三日ノ評議員例会(毎週木曜日会合)ニ於テ当日会長欠席ノ為メ議長ヲ代理シタル副会長「ミゲール、カルモン」氏(曾テ勸業工部長官タリシコトアリ)ハ在支那伯国代表者「アルメイダ、ブランドン」氏ヨリ同氏ニ宛テタル支那移民誘入ヲ有利ナリトスル書翰ヲ朗読シタル後該書翰中ニ含メル「ブランドン」氏ノ意見ハ絶対ニ真実ナリト敢言シ更ニ副会長自身ノ

同伴、渡航旅費ノ調達及輸送方法等ニ関シ多大ノ困難アルヲ以テ此ノ際其ノ誘入ヲ行フガ如キハ既報ノ通り不可能ニシテ当分我ニ於テ其ノ競争ヲ懸念スルノ要ナシト觀測致居候ヘ共不取敢右ノ事情御参考迄報告申進候 敬具

本信写送附先 在サンパウロ 松村総領事

二〇三 七月二十四日

在伯国野田臨時代理公使ヨリ
後藤外務大臣宛

中国移民誘入ニ関スル在北京伯国公使ノ書翰

訳報ノ件

通公第一〇九号 (九月二十五日接受)

大正七年七月二十四日

在伯

臨時代理公使 野田良治(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

伯国農会副会長「ミゲール、カルモン」氏が在支那伯国代表者(公使)「アルメイダ、ブランドン」氏ヨリ伯国ヘ支那移民誘入ヲ有利ナリトスル書翰ヲ受取り之ヲ農会評議員例会ニテ朗読シタル次第ハ本月十三日附通公第一〇一号拙信ヲ以テ申進置候処予ネテ依頼シ置キタル該書翰写本日

意見ヲモ附言シタル上該書翰ハ出来得ル限り広ク之ヲ周知セシメ特ニ移民問題ニ関シテ利害ヲ有スル「サンパウロ」農会ニ其ノ内容ヲ通牒スルヲ必要ト認ムル旨言明シ続イテ「コレイヤ、デ、フレイタス」氏モ本問題ニ関シテ支那人就中北支人ハ伯国ニ取リテ第一等ノ協力者タルベシト思考セラルル旨ノ意見ヲ述ベタル趣ニ有之其ノ一兩日後ニ右農会副会長ニ面会アリタルヲ以テ小官ハ差支ナクバ参考ノ為メ該書翰ノ写ヲ入手シ度キ希望ヲ述ベ其ノ快諾ヲ得タルニ拘ラズ未ダ之ヲ入手スルノ運ビニ至ラズ候ヘ共該書翰ノ性質ハ上記ノ如ク既ニ判然シ居ルヲ以テ格別其ノ詳細ヲ知ルノ必要モナカルベシト思考致シ候又客月着任シ本月初旬国書捧呈ヲ了リタル支那国新公使夏詒霆氏ハ新任披露ノ為メ農工商務長官ヲ礼訪シタル際伯国ヘ支那移民ヲ誘入スルコトニ関シ幾分談話シタルヤノ風評モ有之元來毫モ人種の偏見モ有セス甚ダ日本鼠眞ニシテ且同時ニ支那人ニモ同情セル現農工商務長官ノ事ナレバ支那公使ニ対シ同国移民ヲ誘入シテハ如何位ノ談話ハアリタルナラント推測致シ候要スルニ当国官民中ニハ少数ノ支那移民誘入賛成論者アルモ大体ニ於テ反对論強勢ナルノミナラズ支那移民ハ家族

「カルモン」氏ヨリ送附相受ケ候ニ付別紙ノ通り全文翻譯ノ上御参考迄貴覽ニ供シ候 敬具

本信写送附先 在サンパウロ 松村総領事

(別紙)

北京駐劄伯国公使私信(訳文)

前略

吾等ノ愛スル伯国ニ重大ノ利害關係アル一問題ニ対シ御注意ヲ払ハルル様致シ度ク候
小生ハ賢台ガ伯国ヘ黄色人移民誘入反对ノ先入思想ヲ抱懷セラルルヤ否承知致サズ候ヘ共サンパウロ州ガ日本人二万五千名ヲ誘入スル為メ最近一ノ契約ヲ結ビタルコト、戦争ノ為メ欧洲移民阻止セラルルカ又ハ少クトモ其ノ渡來數著シク減少スヘキコト竝ニ珈琲耕地及一般ニ我が国農業ノ発展ハ外国移民ヲ要求スルコトヲ考慮シタル結果トシテ小生ハ支那労働者ノ有利ナルコトヲ示スベキ義務ヲ回避スル能ハズ候

嘗ニ我が国ノ為メニ何事ヲカ成サントノ意アルガ為メノミナラズ尚ホ当公使館ノ任務ヲシテ幾分有用ナルモノタラシメンガ為メ小生ハ当国ニ赴任スル長途ノ旅行中斯ク思考致

セシ処細心事実ヲ觀察スルニ及ビテ小生ノ思考セル所全ク其ノ道理アルコトヲ発見致シ候

支那人就中北部ノ支那人ハ優良ナル農夫ニシテ伯国ニ渡航スルモ之ガ為メ彼等ノ伝統的職業ヲ棄テテ他ニ転業スルカ如キコトナカルベシト存ゼラレ候

彼等支那人ハ一般東洋人ニ比シ體質一層強健且一層質素ナル労働者ニシテ之ヲシテ歐洲労働者ニ代ラシムルモ何等不便ナク只歐洲人ノ支那人ニ優レル点ハ我が国人ト其ノ人種近似セルノ一事ニ過キズ候

仏国ノ諸新聞ハ幾万復幾万ト続々同国ニ赴キタル支那苦力ヲ盛ンニ賞讃シ居リ曾テ小生ハ野外、彈藥製造所、波止場及其他ノ労役ニ従事スル總テノ外国人中支那人ハ最良労働者ナリト記載シアルヲ闊読致候又当地在勤英國公使館参事官ハ小生ニ向ヒ支那人ハ爾余ノ外国人ガ一週間ヲ要スル仕事ヲ歐洲ニ於テ二日間ニ成シ遂グル旨確言致候
サンパウロ州ノ囑託ヲ受ケテ当地ニ来リシコトアル「ドクトル、モラエス、バルロス」氏（訳註 一昨年本邦ヲモ視察シタル同州前農務長官）ハ之ト同意見ニシテ即チ同氏ハ支那移民ヲ頗ル好ク品評セルヤニ聞及ビ居リ候

二〇四 九月二十五日

在サンパウロ松村總領事ヨリ
後藤外務大臣宛

伯国移民千六百九十六名来着ニ際シ荒井通

訳官サントス出張提出ノ復命書進達ノ件

附屬書 右復命書

通機密公第三号

（十二月三日接受）

大正七年九月二十五日

在サンパウロ

總領事 松村貞雄（印）

外務大臣男爵 後藤新平殿

伯刺西爾移民組合取扱第五回移民上陸状況視察並ニ保護監督ノ為メ本月一日当館荒井通訳官ヲ「サントス」港へ出張セシメ候処今般別紙ノ通り復命候、然ルニ同船ニ便乗セシ成瀬書記生其他各人ノ談話ニ依リ是レヲ察スルニ今回ノ移民ハ初期以来ノ不出来ニテ船中ノ監督、訓練等ハ全然等閑ニ附セラレタルノ觀アリ、爾来本官及前任諸官カ報告、勸告其ノ他ノ方法ニ依リ極力我カ移民ノ欠点除去ニ力メ近年漸次好傾向ニ向ヒツツアリシニ、一朝ニシテ根底ヨリ覆サレタルノ感アリ、案ズルニ船員ノ移民輸送ニ馴レザル事情

賢台ハ国防ニ関スル愛國の御努力ノ外ニ全心全靈ヲ我が國ノ農事ニ献ゲ居ラレ而シテ移民問題ハ農事ノ為メ主要ノ問題ニ有之候ニ付仍チ本件ニ関シテ賢台ノ御注意ヲ促ガス次第ニ有之候

尚ホ近々伯国駐劄支那公使夏詒霆氏貴地ニ向ヒ出発ノ筈ニシテ幸ヒ同公使モ伯国ニ支那移民誘入ノ途ヲ開カントノ最好希望ヲ有シ居ラレ候

汽船欠乏ノ為メ戦争終熄前ニ何事ヲカ成シ遂グルコトハ、敢テ不可能ニハアラザルヘキモ、而カモ随分困難ナルヘキハ小生ノ否認セザル所ニ有之候

併シ将来ニ於テハ本問題ハ十分実行シ得ラルヘキモノト存シ候賢台ハ我が國ノ必要ニ関シテハ小生ヨリモ遙ニ能ク御存知ニ候ヘバ可然御配慮相成候事ト存シ候

夏公使賢台ヲ訪問セラレ候筈ニ付其節ハ宜シク御待遇相成リ度ク候 不備

千九百十八年三月二十九日

北京ニ於テ

アルメイダ、ブランドン

ドクトル、ミゲール、カルモン殿

アリシナランモ、輸送中監督訓練ニ最モ責任アル可キ監督者トシテ海外興業会社及日本貿易会社ノ当地及亜国ニ赴任ス可キ家族携帯ノ会社員ヲシテ便宜其ノ任ニ当ラシメタルハ殊ニ監督上、不行届ヲ生ジタル事ト被察候若シ将来此ノ如キ社員ヲシテ便乗旁々監督ノ任ニ当ラシムルノ止ムヲ得ザル事情アル場合ハ之ガ助手トシテ、専門的ニ移民ノ監督訓練等ニ従事シ得ベキモノヲ附スル様致度候報告提出旁々右申進候也 敬具

本信写送付先

一 在伯野田臨時代理公使

一 在「リベロン、プレート」三隅副領事

（附屬書）

新来移民上陸状況視察並ニ保護監督ノ命ヲ帶

ビテ九月一日及二日サントス港へ出張セル復

命書

伯刺西爾移民組合取扱第五回移民千六百九十六名ヲ搭載セル日本郵船会社船博多丸ハ大正七年九月二日午前十一時「サントス」港ニ入港セリ、同船ハ九月一日着港ノ予定ナリシガ入港前濃霧ノ甚ダシキニ遭遇セル為メ一日遅延シタル

次第ナリト云フ、

新來移民保護監督ノ方法ニ就テハ是迄小官力数次報告セシ所ト大差ナキヲ以テ爰ニ之ヲ省略スルコトトナシ今ハ舊本回移民ノ到着及上陸ノ模様ニ関シ特ニ小官ノ注意ヲ惹キタル二三ノ点ヲ記シテ以テ復命ニ代ヘント欲ス幸ニ何等カノ参考トモナラバ頗ル仕合トスル所ナリ、

(一)伯刺西爾移民ハ未ダ決シテ樂觀ヲ許サズ船ノ内港ニ着セルノ報ヲ得ルヤ小官ハ伯國諸官憲ト同様例ニ依リ本船ニ趣キタルガ五十有余日ノ長航海後愈々目的港ニ達セルヲ歡喜ノ念ト他方自己ガ將ニ身ヲ寄セントスル異國ノ風光ヲ觀知セントスル好奇心トハ移民ノ大多数ヲ驅ツテ之ヲ甲板上ニ在ラシメタリ、然ルニ彼等ノ多クハ是迄ノ移民ガ船ノ入港ト同時ニ悉ク服裝ヲ改メ其風采甚ダ端正ナルモノアリシニ引キ替ヘ船ハ既ニ埠頭ヨリ僅々数丁ノ距離ニ在リシニモ拘ラズ尚依然日本ノ粗末ナル單衣ヲ着シ脛、太股ハ勿論甚タシキハ褌迄ヲ出示シテ或ハ船ノ手摺ニ凭レ或ハ竹ミ又或ハ屈メル者アリ、ト思ヘバ他方婦女子ノ間ニハ肌身ヲ半示セル者、乳房ヲ全ル出シニセル者等アリテ其狀洵ニ醜態ヲ極メタリト云フベシ、

是ハ我移民濫觴ノ當時ヨリ早ク既ニ北米地方ニ於テ當該官憲ガ言ヲ極メテ警告セル所ナリシモ遂ニ關係者ノ聴ク所トナラズシテ排斥ノ一原因ヲ成シタル事ハ何人モ識ラザル所ナキ我移民史上最も顯著ナル事蹟ノ一ツナリトス、邦人中ニハ往々伯國ヲ蔑視シ之ヲ以テ一概ニ北米ト異レルモノナルカノ如ク思量シ輕卒ニモ日本移民ノ將來ヲ樂觀スル者アリト雖モ是レ甚ダシキ謬見タルヲ免レズ、成程物質的文明ノ度ニ於テハ彼我ノ間ニ二三十年ノ差アル事ハ確ナリト雖モ此ノ差アル点コソ即チ今ヤ伯刺西爾國ガ日本移民ヲ要容スル所以ナルハ猶今ヨリ二三十年前ニ於テ北米合衆國ガ我移民ヲ排斥セザリシガ如シト雖モ今後二三十年トハ言ハズ十年ヲ經過シテ歐洲諸國ガ漸次戰爭ノ損失ヲ恢復シ再ビ南米ニ向ツテ發展セントスル時ハ即チ我移民排斥ノ虞アル秋ナレバ移民關係者ハ予メ其覺悟ヲ以テ北米ノ轍ヲ踏マザラン為メ今ヨリ着々之ニ備フルノ用意ナカルベカラザルナリ、

又他方ニ於テ伯國ハ今ヤ戰亂ノ影響トシテ痛ク勞力ノ欠乏ニ困憊シ殊ニ直接農業ニ關係ヲ有スル當「サンパウロ」州ノ如キハ猶支那人又ハ印度人等ノ他ノ亜細亞移民

ナカラシムベキナリ、

(二)上陸狀態甚ダ拙惡ナリキ

是迄移民船ガ伯國官憲ヨリ上陸ノ許可ヲ得ルヤ直チニ之ヲ開始シ數時間ニシテ是レガ終結ヲ告グルハ其常トセル所ニシテ其間秩序整然タルモノアリテ歐洲移民ノ間ニハ到底見ルヲ得ザル所ナリトシテ内外人ノ等シク嘆賞措カザル所ナリシガ今回ノ上陸狀況ヲ視ルニ上陸ノ許可アリテ後移民ハ始メテ衣服ノ着替ヲ為シ終リテ漸ク甲板上ニ集マリタル有様ニテ其混亂雜沓到底見ルニ堪ヘザルモノアリタリ、從ツテ上陸ニ甚ダシク手間取リタルハ爰ニ更メテ言ヲ要セザル所ナリトス、即チ午后二時三十分上陸ヲ開始シ翌日午后五時ニ到リ漸ク全部ノ終了ヲ為シタルガ如キハ前項ノ醜態ト相對シテ船内教育ノ不行届ヲ証明スルモノナルト同時ニ輸送監督ナル者ガ移民ニ對シ如何ニ冷淡ナリシカ又彼ハ是迄帝國官憲ガ數々繰リ返シタル警告ヲ無視シ敢テ海外異境ニ於テ日本國民ノ名聲ヲ犧牲ニシテ憚ラザル愛國心ニ乏シキ者ナルヤヲモ疑ハシムル者ト云フベシ、

(三)小兒死亡問題

ヨモ誘入シテ歐洲移民杜絶ノ欠陥ヲ補充セント企テタルガ如キ実情ナルガ故ニ彼等ハ目下歛ンデ日本移民ヲ迎ヘツツアル事猶現時南米貿易市場ガ戰亂ノ結果トシテ歐洲品ヲ獲ルノ途ナキ為メ我粗製濫造品ヲモ容易ニ需要シツツアルガ如キモノアリト雖モ是レ全ク刻下ノ事情已ムヲ得ザルノ然ラシムル所ニシテ其裏面ニ伏在スル排斥ノ氣勢ハ依然滅絶セル事ナク宛モ彼ノ火山ガ一時消沈ノ狀ヲ呈シツツアルガ如キモノアリテ未ダ決シテ心ヲ安ンズルノ秋ニアラザルニ会々時局ノ關係上既記ノ如ク日本移民ガ伯國ニ於テ或ル程度ノ需要歡迎ヲ享ケタレバトテ此ノ一事ヲ以テ直ニ將來ヲ樂觀スルカ如キハ亦甚ダシキ謬見タルヲ免レザルベク從ツテ些ノ油斷ヲ許サザル場合ナルニ今次ノ如キ移民ニ失態ヲ演ゼシメタルハ移民ノ輸送ヲ以テ營利ノ唯一目的トセシ昔時ノ奴隸売買業者ナレバイザ知ラズ苟モ日本國民ノ海外發展ヲ唱ヘ、國家的事業ナリト吹聴シ、目下余リ大シタル代償ナキモ然カモ將來ニ囑望セシメテ日本人ノ移住ヲ勧誘シツツアルノ責ヲ完フスル所以ニアラザレバ責任者ハ須ラク今回ノ非ヲ懺ヒ今ノ秋ニ於テ最モ細心ノ注意ヲ払ヒ以テ將來ノ為メニ遺憾

博多丸今回ノ航海中其出シタル死亡者ノ数ハ總テ三十六件ニシテ中七件ハ成年者ノ死亡ニ係リ残余ノ二十九件ハ重ニ乳児ノ死亡ヲ示スモノトス、

千七百名ニ近カラントスル多数移民ガ二ヶ月ノ航海ニ於テ七名ノ死亡者ヲ出シタル事ハ特ニ驚クベキ高率ト云フヲ得ザレドモ航海比較ノ平穩ニシテ日数亦多シト云フヲ得ザルニ二十有余名ノ乳児死亡者ヲ出シタル事ハ亦大ニ当該者ノ慎重ナル研究ニ値スル問題タラズンハアラザルナリ、蓋シ死亡ノ原因ガ其多クノ場合ニ於テ乳母ノ船暈ニ基ク營養不足ニアルハ毎航一律ノ如クニシテ其死因タルヤ全ク乗船ニアルハ明々瞭々ノ事ニ属シ若シ此等不幸ナル兒童ガ船ニ乗ラザリシナラバ彼等ハ斯ル悲運ノ最後ヲ遂グル事ナク、一匹一人ノ日本人トシテ将来国家ノ為メニ何事ヲカ為シ得タリシハ之ヲ想像スルニ難カラザルナリ、

此ノ問題ニ関シテ主任船医ノ供述ヲ聴クニ彼ハ寧ロ其罪ノ一部ヲ移民ニ帰セントスルガ如クニシテ何等具体的ニ要領ヲ得セシメザリキ、彼曰ク此ノ点ニ関シ船ニ於テハ充分手ヲ尽シタレドモ如奈セン、移民ノ多数ガ利己主義

人間ニ著シク注意ヲ惹キ殊ニ一派ノ新聞紙ノ如キハ是ニ関シテ殊更棒大ノ報道ヲ為シ我移民ヲ以テ宛モ亜非利加黒奴デモアルカノ如ク思惟セント企ツル者アル一事ハ関係者ノ亦大ニ注意スベキ所ナルベク、又右ハ伯国ニ於ケル我移民ノ価値ト其将来ニ取リテ良好ナラザル結果ヲ来スノ虞ナキニアラザレバ今後一層此ノ点ニ向ッテモ相当備フル所ナカルベカラザルナリ、

(五) 对本邦移民衛生問題

サンパウロ州ノ地方ニ医師ノ僅少ナルハ州政府ハ勿論当州衛生局ニ於テモ尚之ヲ認メ居ル所ニシテ地方在住ノ内外人ガ此ノ点ニ関シテ痛ク困難シ居ル事ハ今ヤ広知ノ事實ナリトス、殊ニ言語風俗習慣ニ通ゼザルノミナラズ風土ニ慣レザル近着移民ニ於テ最モ然リトナス而シテ此等遠隔ノ地方ニ在留スル日本移民ノ数ハ既ニ二万ヲ出デ今後兩三年間ニハ尚数万ヲ加ヘントスルノ情勢ナルガ現時ニ於テスラ早く既ニ医師ノ少キヲ嘆ゼシメツツアル実情ナルニ今後ハ此ノ問題ヲ如何ニ解決スベキカ是亦当該者ノ最モ慎重ナル考量ヲ促ス所タラズンバアラザルナリ、尤モ「サンパウロ」州法ガ州内ニ於テ外国医

者流ニシテ他人ノ不幸損失ノ如キハ敢テ構ハザルノ風アリ、例ヘバ船ヨリ前記營養不足ノ乳児ノ為メニ特ニ鐘詰「ミルク」ヲ溶カスノ目的ヲ以テ熱湯ヲ供与スレバ他ニ何等其要ナキ者モ争フテ之ヲ求メント欲シ剩ヘ虚偽ノ手段ヲ用キテ之ヲ濫用スル者多タアリシガ為メ遂ニハ實際必要トスル者ニ迄之ヲ分与スル事能ハザルニ到リタル事情ヲ語リ又中ニハ乳母其他ノ関係者ガ兒童ニ鐘詰「ミルク」ヲ与フルヲ拒ミタル者モコレアリタリト附言シ蒙昧陋劣ナル移民ノ洵ニ御シ難キヲ嘆息セリ、是ハ一方大ニ船員ニ同情スベキ廉ナキニアラズト雖モ問題ハ二十有余名ノ死亡ニ係ル大事件ナレバ船内此ノ種ノ取締ヲ一層嚴重ニシ斯ル濫用虚偽ノ手段ヲ軍律的ニ禁制スルト同時ニ他方船内教育ヲ盛ニシテ移民並ニ船員ノ愛隣道義心ヲ向上スルハ亦間接ナル手段トシテ必ラズシモ効果ナキニアラザルベシ、例ヘバ第二回及第三回移民輸送ノ如キハ其好適例ナリトス、何レニシテモ此ノ点ハ何トカ救済ノ方法ヲ講ゼザルベカラザル人道問題ナリトス、

四 死亡数ト伯国新聞紙

最近日本移民ノ航海中死亡率ノ甚ダシク昂騰セルハ伯国

ニ医術ノ自由開業ヲ許スナラバ何等特ニ虞フベキノ理由ナキモ如奈セン州法律ハ或ル程度ノ例外ヲ除キ全然之ヲ禁制シ居ルナリ、最近地方ヨリ報ズル所ニ拠レバ日本医師ノ一人ハ秘密開業ノ廉ヲ以テ罰金百「ミルレーズ」ニ処セラレタリトアリ、是ハ「サンパウロ」州ガ日本移民ヲ歡迎スル今日ニ於テコソ解決ノ望ナキニアラザレドモ此ノ好機ヲ失シテハ又甚ダ困難ナルモノノ如ク思惟セララル廉モナキニアラザレバ、最モ緊急問題ノ一ツタラズンハアラザルナリ、

因ニ本問題ニ関シテハ小官本年四月中松村總領事ノ命ヲ享ケ州農商務当局及州衛生局長ト懇談シテ其意向ヲ探リタルニ目下日本移民ノ需要ヲ痛切ニ感ジ居ル当局ハ当總領事館ノ移民衛生ニ関スル觀察ヲ以テ最モ至当ナルモノト做シ慎重以テ考量スベキ旨約サレタリ尚衛生局長ハ当州ニ於ケル外国医ノ開業ハ内国同業者ヲ憤怒セシムルノ虞アリテ頗ル「デリケート」ノ問題タルヲ免レザルガ相互条件ノ下ニ日本医師ノ数ヲ限リテ開業ヲ許可スル事ハ万更出来難キ事ニモアラザルベシトテ日本移民出帆港ニ一名ノ伯国医師ヲ駐在セシムルノ

便利ナルノ意ヲ個人的意見トシテ漏ラサレタル事アリ

右復命旁及上申候 敬具

大正七年九月八日

在サンパウロ日本総領事館

公使館二等通訳官 荒井金太(印)

二〇五 九月二十五日

在サンパウロ松村総領事ヨリ
後藤外務大臣宛

博多丸搭乗ノ伯国行日本移民千六百九十六名ノ

輸送状況ニ関スル成瀬書記生ノ報告書進達ノ件

附屬書 右報告書

機密第四号

(十二月三日接受)

大正七年九月二十五日

在サンパウロ

総領事 松村貞雄(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

当館在勤外務書記生成瀬廉提出ニ係ル首題報告書茲ニ及進
達候御査閱相成様致度此段申進候 敬具

本信写送付先 在伯野田代理公使

在「リベロン、プレート」 三隅副領事

(附屬書)

民ノ健康診断及ビ予防注射ニ從ヒ居レリ就イテ其ノ状態ヲ
聴クニ二三流行性感冒ノ輕症患者ヲ除クノ外懸念スベキ病
症無シトノコトナリ

乗船 十一日午前六時ヨリ午後一時迄四回ニ亘リ三層ニ分
チタル大船船隻ヲ小蒸氣ニ曳引セシメ女神検査所ニ於ケ
ル検査消毒ヲ経テ運送船博多丸ニ乗船セシメ午後四時ヲ以
テ全部乗込ヲ了ス小官亦午後二時ヲ以テ乗船シ船内ヲ巡視
スルニ混雜ノ様名狀シ難シ午後五時長崎警察部保安課ヨ
リ警部崎村助六氏外四名來船巡視セリ本船ハ午後六時出帆
ノ予定ナリシモ風雨強烈ヲ極メ本日碇泊ニ決シ午後七時各
見送人下船シ花火天ニ彩シ万歳濤ニ震ヒ奏樂裡ニ夜ニ入り
翌十二日午前八時十五分怒濤ヲ蹴ッテ出帆ス
輸送員ト移植民數 移民組合ヨリ輸送員トシテ四名乗船ス
移植民總數ハ壹千六百九拾六名ナリ今之ヲ表示スレバ次ノ
如シ

移植民總數表

家族數	男女別人員數		年齡別人員數	
	男	女	計	十二歳以上 十二歳未満
移植民	四二七	九四五	一、三六四	一、三三三
四	七	九	一六	一六

移植民輸送状況視察報告書

在サンパウロ

外務書記生 成瀬 廉(印)

一、乗船地ニ於ケル視察

小官過般当館へ赴任ノ際便乗船博多丸ハ移民輸送船タリシ
ヲ以テ親シク其ノ輸送状況ヲ視察セント欲シ七月九日午後
長崎着未ダ旅装ヲ解カズシテ車ヲ移民組合事務所ニ驅リ其
ノ執務ノ実況ヲ視且監督指揮ノ任ニ當レル組合理事水野龍
保田龜太郎ニ就キテ移植民状態ヲ聴取シ翌十日ハ親シク宿
泊所ヲ巡視シタリ

移植民宿泊所 移植民ハ之ヲ各県別ト為シ尚員數ニ応ジ市
内多數ノ旅館ニ分宿セシメアリ家長ノ大多數ノ壯年者ナル
ハ大ニ意ヲ強ウスルニ足レリ旅館主ノ移民ニ対スルニ専ラ
厚意ヲ以テシ向後ノ乗船地トシテ永ク同地ヲ維持セント期
スルモノノ如シ乗船前ニ於ケル移植民ノ組合員ニ対スル様
從順ノ度極レリト云フベク強者對弱者ノ觀無クンバアラズ
幸ニシテ組合員ノ態度粗暴ニ流レザリシハ向後共ニ囑望ス
可キコトナリトス乗船前二日ニ亘リ移民組合囑託医神戸市
鵜飼病院長鵜飼敬二及ビ博多丸船医矢部賢三八相共ニ移植

植民	七	一八	一四	三二	二四	八	三二
合計	四三	四九	六三	七三	三一	六九	六一

更ニ之ヲ県別ニ詳記スレハ次ノ如シ

移民県別明細表

種別	家族數	男女別人員數		年齡別人員數		總人員ニ對 スル十二歳 以上ノ割合
		男	女	計	十二歳以上 十二歳未満	
沖繩	一〇八	二一九	一三九	三三八	二二三	五八
鹿兒島	四六	一〇八	七四	一八二	一四五	三七
新潟	四六	一〇〇	八三	一八三	一四四	三七
福岡	四四	九五	八四	一七九	一三五	四七
熊本	四二	九六	七六	一七二	一二九	四三
山口	三一	六三	五四	一一七	九五	二二
福島	一八	四二	三三	七五	五六	一九
佐賀	一五	三二	二六	五八	四八	一〇
長野	一四	三三	二一	五四	四五	九
和歌山	一二	二五	二三	四八	三九	九
愛知	一一	三三	一九	五二	三五	一七
広島	五	一三	一〇	二三	一五	八
鳥取	五	一一	一〇	二一	一五	六

合	愛	三	岡	山	高	滋	靜	香	長	富	埼
計	媛	重	山	形	知	賀	岡	川	崎	山	玉
四七	一	一	二	二	二	三	三	三	四	四	五
四五	四	二	四	六	七	八	七	七	九	一三	八
七九	三	二	三	四	三	六	七	八	二	九	一〇
一六四	七	四	七	一〇	一〇	一四	一四	一五	二一	二二	一八
一三四	三	三	六	七	七	九	九	一〇	一四	一五	一五
三〇	四	一	一	三	三	五	五	五	七	七	三
一六四	七	四	七	一〇	一〇	一四	一四	一五	二一	二二	一八
〇、〇八〇	〇、〇九元	〇、〇七〇	〇、〇八七	〇、〇六〇	〇、〇六〇	〇、〇六三	〇、〇六三	〇、〇六七	〇、〇六七	〇、〇六二	〇、〇八三

植民県別明細表

種別	家族数	性別		計	年齢別人員数 十二歳以上 十二歳未満	計	総人員に對 スル十二歳 以下ノ割合
		男	女				
長野	七	一八	一四	三二	二四	八	〇・四〇
合計	七	一八	一四	三二	二四	八	〇・四〇

前表ニ於テ沖繩県ハ十二歳以上ノモノ九割強ヲ示シタルハ

稍高キトハ寒暑ニ従ヒ苦痛多カリシコトト思考ス

第一号艙 熊本一七二 鳥取二一 香川一五 計二〇八
第二号艙 福岡一七九 広島二二 埼玉一八 山口一一
七 岡山七 三重四 計三四七
第三号艙 冲繩三五八
第四号艙 新潟一八二 福島七四 滋賀一四 長崎二一
計二九一
第五号艙 静岡一三 福井一二 愛媛七 佐賀五八 富
山三二 山形一〇 高知一〇 長野八六 計
二一八
第六号艙 鹿児島一七九 和歌山四七 愛知五二 計二
七八

移植民代表者　移植民中ヨリ組長二十四名副組長十一名ヲ
設ケ輸送員トノ間ノ意思伝達機關タルト共ニ自治取締ニ任
ゼシメタルハ便宜且有益ト思考ス而シテ其ノ撰定ハ移植民
ノ互選ニ由ルモノアルモ各県移民会社業務代理人ノ申請ニ
基キ決定セルモノ過半ヲ占メタルガ如シ家族數ニ対スル代
表員ノ數ヲ表示スレハ次ノ如シ

組長副組長配当表

富山	山形	佐賀	高知	滋賀	長崎	埼玉	山口	広島	鳥取	香川	熊本	鹿兒	長野	新潟	福島	沖繩	福岡	県別	種別
四	二	一五	二	三	四	五	三一	五	五	三	四二	四六	二一	四六	一八	一〇八	四四		家族数
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三		組長
											一	一	一	一	一	三	三		副組長
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	二	二	二	二	四	六		計

最モ注目ニ値ス親シク同県人ニ就テ聞クニ可成の小兒幼童ハ之ヲ親戚知己ニ託シ船中並ニ渡航後ノ活動ノ敏活ナランコトヲ期シタリトノコトナルガ船中罹病及ビ死亡ノ狀況並ニ伯國ニ於ケル同県人活躍ノ現狀ヲ見バ一考ニ値ス可シト雖モ自ラ風俗人情ヲ異ニスル内地人ニ之ヲ移シテ論ゼンハ素ヨリ方ラズ殊ニ曾テ愛兒ヲ故國ニ殘留シ置キ渡航中之ヲ苦悶ノ余リ癡狂シテ海中ニ身ヲ投ジ悲惨ノ最後ヲ遂ゲタル一婦人ノアリシヤニ聞ケバ幼兒ニ對スル船内設備ヲ改善スルニ留メ敢テ強ユ可キノコトニモアラザル可シ

輸送員左ノ如シ

監督	田口 道造	海外興業株式會社伯國支店長
副監督	小平隆次郎	日本貿易株式會社社員
補助員	田口 弘	同（道造実弟）

岡本秀之助 海外興業株式会社事務員

二、船内ニ於ケル視察

船室ノ割当 移植民ハ之ヲ二段ニ分チタル六個ノ艙内ニ収容セシガ人員配置左ノ如シ而シテ第三艙迄ハ艙部ニ位シ第四艙以下ハ艙部ニ位ス各艙多少ノ優劣ハ免レズト雖モ第三艙ノ光線僅少ナルト第四号艙ノ機関室ニ近キ為メ温度ノ

愛知	一二	一二	一二	一二
和歌山	一二	一二	一二	一二
岡山、三重	三	一	一	一
静岡、愛媛	四	一	一	一
合計		二四	一一	三五

前表ニ於テ福岡県代表者ガ他県ニ比シ其数多キニ過グルハ
同県移民ノ取扱会社及代理人ヲ異ニセル結果ナリト雖モ多
少徒ニ其ノ位置ヲ争ヒタル傾アリシヲ遺憾トス
船員補助 移植民中ヨリ船員ノ補助トナリ配飯等ニ従事ス
ルモノ二十九名衛生事務ニ従事スル者五名ヲ募集シ事務ノ
性質上後者ハ多少調剤看護ニ経験有ル者ト制限シ郵船会社
ヨリハ前者ニ対シ全航海参拾円後者ニ対シテハ一日七拾銭
乃至壹円支給セリ然レ共今後専門看病人数名ヲ乗船セシム
ヘキ要アルヲ認ム

食事 小官乗船ノ際糧食ノ準備ニ就キ得タル回答ニ由レバ
本準備副準備及非常準備ノ三ニ分チ本準備トシテハ航行予
定六十日間副準備トシテハ十日間ノ食糧ヲ積載シ非常準備
トシテ乾麵麴六食分ヲ準備セリ而シテ一日ノ食糧ハ白米六
合魚肉三十匁牛豚肉三十匁野菜六十匁沢庵十三匁味噌十匁

第一回実査食料（出帆当時一週間）

月日	種別	朝	昼	夕
七月十二日	食	玉菜味噌汁、佃煮、梅干、沢庵	大根牛肉ノ煮付、沢庵、薤	蒲鉾、切干大根、紅生薑
十三日	食	南瓜味噌汁、金山寺味噌、梅干、沢庵	牛肉馬鈴薯玉葱、煮物、沢庵、薤	鯉、胡瓜ノ酢モノ、沢庵、紅生薑
十四日	食	玉菜味噌汁、切干大根ノ酢物、梅干、沢庵	牛肉馬鈴薯玉葱、煮物、沢庵、薤	かじき鮭、豆腐、紅生薑
十五日	食	胡瓜味噌汁、切干大根ノ酢物、梅干、沢庵	牛肉馬鈴薯玉葱、煮物、沢庵、薤	蒲鉾、照煮、玉菜、胡麻合、紅生薑
十六日	食	玉菜味噌汁、佃煮、梅干、沢庵	牛肉馬鈴薯大根、煮物、沢庵、薤	鮭、煮付、煮びたし、沢庵、紅生薑
十七日	食	冬瓜味噌汁、金山寺味噌、梅干、沢庵	牛肉馬鈴薯玉葱、煮物、沢庵、薤	かじき鮭、南瓜ノ煮付、沢庵、紅生薑
十八日	食	南瓜味噌汁、かますノ干物、梅干、沢庵	牛肉馬鈴薯玉葱、煮物、沢庵、薤	かじき鮭、あんかけ大根、紅生薑

砂糖二匁醬油十五匁茶七分味付雜魚二匁宛ノ割合ニシテ其
ノ価格朝食拾銭昼食及夕食各拾五銭計一日一人四拾銭ノ見
込ナリトノコトナリキ小官親ヲ給与ノ實際ヲ調査セシニ毎
食米〇、九桜麦〇、一ノ割合ヨリナル混合飯二次ノ如キ副
食物ナリ惟フニ船内食料トシテハ麦ノ混合歩合ヲ更ニ増加
スルノ必要アルベクコハ這回航海中脚氣患者ノ多数ヲ生ジ
タルニ徴シテモ明ナルベシ然ルニ「サントス」着約一週日
前ヨリ脚氣患者ノ激増スルニモ係ハラズ麦飯ヲ廃シ代フル
ニ米飯ヲ以テセルハ其ノ意ヲ得ズ移民中米飯ヲ欲スルノ余
リ麦飯ニ対シ怨嗟ノ声ヲ放ツモノアリテ前記米飯ニ變更ノ
際脚氣患者ニ対シ特ニ麦飯ヲ給スベキ旨告示セシニ僅ニ六
名ノ申出者ヲ見タルノミナリシト云ヘバ輸送船トシテハ其
ノ歛心ヲ買フノ必要ヲ認メタルヤモ知レザレ共千七百名ノ
健康ニ対スル責任ハ約一週日ノ米飯支給ニヨリテ疑ヲ容レ
シメタルヲ遺憾トス且小官ハ左記副食物ノ余リニ脂肪質ニ
富ムハ船内運動不足ノ折柄却ツテ健康ヲ害スル無キヤヲ怪
シム代フルニ野菜ノ量ヲ増加セバ或ハ更ニ成績ノ顯著ナル
可キヲ思フモ素ヨリ専門家ノ研究ヲ俟ツテ論ズ可ク猶稽量
ノ余地ヲ残ス可シ

第二回実査食料（航路半ノ一週間）

月日	種別	朝	昼	夕
七月二十九日	食	若布味噌汁、佃煮、梅干、沢庵	煮肴、干蓮根、沢庵、薤	鮭罐詰ト玉葱ノ酢物、玉子玉葱ト干魷ノ吸物、沢庵、紅生薑、小豆飯
三十日	食	南瓜ノ味噌汁、金山寺、梅干、沢庵	牛肉馬鈴薯玉葱、煮物、沢庵、薤	あかい煮付、刻昆布ト鮭罐、紅生薑
三十一日	食	魷味噌汁、大豆、煮物、梅干、沢庵	前 同	鮭罐、蓮根煮付、沢庵、紅生薑
八月一日	食	干切大根ノ味噌汁、梅干、沢庵	前 同	のつぺー汁（里芋、蓮根、蒲鉾、紅生薑）
二日	食	糸若布味噌汁、佃煮、梅干、沢庵	牛肉馬鈴薯玉葱、煮物、沢庵、薤	かじき、玉葱、若布干揚、紅生薑
三日	食	干切大根味噌汁、梅干、沢庵	牛肉馬鈴薯玉葱、煮物、沢庵、薤	玉子、水豆腐ノ茶碗蒸、沢庵、紅生薑
四日	食	魷味噌汁、福神漬、梅干、沢庵	牛肉干牛旁ノ味噌汁、煮粉、沢庵、薤	鮭罐詰酢物、沢庵、紅生薑

前記食事ハ朝食午前七時昼食同十一時夕食午後四時トシ毎

食事ノ外午後二時及六時ニ茶ヲ給シ折々二時ノ茶ト共ニ菓子煎豆等ヲ分与スルヲ見タリ食事ハ亜鉛製バケツ様ノモノ大小二個ヲ備ヘ大器ニハ飯ヲ小器ニハ味噌汁ヲ容レ其蓋様ノモノニハ漬物及ヒ煮物ヲ容レ約十人ヲ一組トシ其ノ代表者ニ木札引換ニ交付セリ而シテ茶碗箸等ノ食器ハ予メ各組毎ニ貸与シ其ノ保管洗滌ヲ託シアリ其ノ洗滌ハ碇泊中ヲ除ク外海水ヲ用ヒ居レリ食糧分配ノ際先ヲ爭ヒ混雜ヲ極メ延テハ下級船員トノ爭論ヲ惹起セシガ如キ寔ニ苦々敷事ニ属ス

衛生設備 船内衛生設備ヲ概観スルニ後部上甲板ニ病室ヲ艙部甲板ニ隔離室ヲ中央上甲板ニ診察室藥室及産室ヲ設ケ産室ハ特ニ疊敷ト為シタリ又上甲板上前部ニ四個後部ニ四個ノ便所ヲ前部ニ二個後部ニ一個ノ浴室ヲ設ケタリ便所ハ男女ニ区分シ浴室ハ午前午後男女二分チタルモ脱衣室ノ設備ナク上甲板ニ於テ男女ヲ問ハス脱衣シ港内碇泊中ト雖モ異ル無ク寄港地外人ノ顰笑ヲ買ヒタルハ後ニ船室ノ改善ヲ記スルノ点ト相俟ツテ風紀上改善ヲ欲スル所タラズンハアラズ又船室ノ通風トシテハ常設通風器(至ッテ妙シ)ノ外帆布製鳥賊型通風器ヲ各艙一個宛備ヘ且各窓ニハ亜鉛製

ノ風受ヲ設ケタリト雖モ未タ充分タルヲ得ズ室隅ノ如キニ至ッテハ不淨ノ空氣常ニ漾溜スルヲ見ル船内衛生トシテ前述食料ノ改変ト共ニ改善ヲ要スルニ大眼目ト思考ス
入浴洗濯髪洗 毎日海水温浴ヲ取ラシメ一週二回ヲ限リ一人約三升宛淡水ヲ加給セリ洗濯用トシテハ一週一回一人約四升ノ淡水ヲ又婦人髪洗用トシテ同約二升ノ淡水ヲ支給セシガ洗濯水ハ遺憾ナク善用セルニモ不拘頭髮洗滌ニ至ッテハ之ヲ試ミル者至極僅少ニシテ己ガ頭上ノ寄生虫ノ撲滅ヲ勉メ居ルノ輩スラ其ノ支給ヲ得タル淡水ヲ洗面洗濯ニ使用シ敢テ毛髪ノ清潔ヲ期セザルガ如キ故郷ノ慣習抜ク可カラサル所以ナランモ頭部ノ不潔ハ船暈ヲ容易ナラシメ船暈ハ消化不良ノ結果ヲ齎スモノナレバ向後渡航移民ニ對シテ極力了解セシメ髪毛洗滌ヲ努メシムルノ必要アリト信ズ
患者ト病種 今次航海出帆當日ハ前夜ノ大暴風雨ノ為メ船体動揺甚敷船内生活ニ慣レザル結果殆ド全部船暈ニ悩ミ爾後概シテ平穩ノ航行多カリシニモ不拘移植民ノ健康ヲ害シタルコト尠少ナラズ殊ニ女子少幼ニ至ッテハ食料摂取意ノ如クナラズ遂ニ營養ノ不良ヲ惹キ衰弱ノ極ニ常ノ悲惨事ヲ見ルニ至レリ殊ニ妊娠中ノ者ハ甚敷妊婦患阻トシテ死亡セ

受診者明細表

病系	年齢					計	備考
	未 満	一 年	二 年 以上 四 年 以下	五 年 以上 十 四 年 以下	十五 年 以上		
伝染系	二〇	二五	四九	二二	一六	一三三	法定伝染病以外ノモノヲ包含ム
消化器系	二一	二二	二一	四二	三一五	四二一	
呼吸器系	一〇	一一	七	六	二一	五五	
視聽器系	一〇	一	七	八	四六	七二	
神経系				六一	九四	二〇一	
泌尿生殖器系				二	二三	二三	
皮膚系	二八	二二	三七	三四	七二	一九二	
外科系	一四	一五	一二	二七	九六	一六四	
其他	三			一	四四	四八	
計	一〇六	九六	一三三	一四六	八二七	一、三〇八	

ル一婦人ノ如キ五十日間殆ド食ヲ摂ラズ衰弱ノ極眠ルガ如ク逝ケルモノニシテ懷胎者渡航ニ對シテハ大ニ考フルノ要有ル可ク又母体衰弱ノ結果乳汁ノ分泌ヲ碍ケ幼児ノ健康ヲ衰ヘシメタルモノ枚挙ニ遑アラズ十八名ノ出生児中九名ハ消化不良發育不善ノ為メ生ヲ全ウシ得ザリシハ如上ノ事實ヲ証シテ余リ有リト云フ可シ次ニ稽フ可キハ皮膚病ナリトス乗船時既ニ多数ノ皮膚病患者及ビ腫物ヲ有スル者ヲ目撃シタルガ漸次其ノ数ヲ増シタルガ如シ且加フルニ暑中汗疣ニ悩ムモノ著シク見ルカラニ憫憐ヲ覚エタリ本航中最高温度ハ八十七度最低五十八度ナリシト雖モ船艙通風意ノ如クナラザル所ハ更ニ四五度ノ高温ナリシコト疑フ可カラズ而シテ船中受診患者延人員ハ六千九百四十八名ヲ算シ一日平均百二十九名ニ達セリ之ニ對スル船医ハ二名ニシテ一昼夜交替トシテ診療ニ従事シ受診時間ヲ午前九時ヨリ十二時午後二時ヨリ四時トシテ急病患者ハ時ヲ定メズ施療ノコトト定メタルカ連日午後八時ヲ過ギザレバ診了ヲ告ゲズ之ヲ以テモ猶素ヨリ充分ナル可キ筈ナク遺憾乍ラ輕診ノ弊絶無ナリトハ信ズルヲ得ズ更ニ二三船医ノ増加ハ焦眉ノ急ナリトス今受診患者ヲ病氣系統並ニ年齡別ニ表示スレバ次ノ如シ

猶特殊病症ニ就キ一言センニ最モ甚シカリシハ消化不良麻疹脚氣及ビ流行性感冒ナリシガ何レモ長崎出帆後幾日ナラズシテ發生シ船医ノ推断ニ由レバ後三者ハ長崎ニ於テ感染セルモノナル可シトノコトナルガ日ヲ経ルニ從ヒ麻疹ノ猖獗甚敷死亡者ノ過般モ亦斯病ガ因ヲ為セリ其ノ初期ニ於テ患者ヲ隔離セシガ蔓延スルニ及ビ終ニ其ノ効無キニ至レリ

猶新嘉坡到着ノ前日満一歳以下ノ幼児ヲ除クノ外全員ニ塩稀丸薬ヲ「マラリヤ」熱予防トシテ服用セシメタル結果幸ニ同病ノ更ニ発生ヲ見ザリシガ当時三名ノ「アメーバ」性赤痢患者ヲ生ジ又後日一名ノパラ窒扶斯患者ノ死亡スルアリシモ何レモ蔓延スルニ至ラズ營脚氣ニ斃ルル者ノ出ヅルニ及ビ比較的該病ヲ輕視シ居タル移植民モ聊カ不安ノ度ヲ高メ来リ一刻モ早ク目的地ニ上陸センコトヲ庶幾セシガ一面麦飯ヲ嫌惡スルコト既説ノ如キノ矛盾ヲ呈セルハ衛生思想ノ欠如ヨリ来ル悲劇ノ一齣タラズンハアラズ

出生及死亡 出生ハ男女各九名ニシテ内三名ハ長崎淀泊中ノ出生ニ属ス外ニ三名ノ死産アリタリ且出生児ノ半ハ生後幾日ナラズシテ死亡セルコト既述セルガ如シ今出生ヲ其ノ家族数ニ比較シ県別ニ表示スレバ次ノ如シ

出生数明細表

種別	県名	家族数	出生数	家族数ニ對スル出生歩合		備考
				合	算	
沖繩	一〇八	二	〇、〇一七			
新潟	四六	二	〇、〇四三			
福岡	四四	四	〇、〇七一			

前表ニ於テ沖繩県カ家族数多キニ不拘其ノ出生歩合最下位ニ属スルハ既ニ述ベタル如ク渡航後ノ実利的活動ヲ欲シ比較的産婦ヲ有スルノ家族ハ渡航見合セタルニ起因ス死亡ハ男二十二女十四名ニシテ其ノ死因病系及年齢別ニ之ヲ表示スレハ次ノ如シ

死亡数明細表其ノ一

病系	年齢	一歳	二歳以上四歳以下	五歳以上十九歳以下	二十歳以上	計
消化不良		八	二			一〇
發育不善		三				三
流行性感冒					一	一

ニ之ヲ死亡者ノ所属県別トシテ表示スレバ次ノ如シ
死亡数明細表其ノ二

種別	県別	人員	死亡数	死亡率	備考
沖繩	三六〇	五	〇、〇一四		
鹿児島	一八二	五	〇、〇二七		
新潟	一八五	三	〇、〇一六		
福岡	一八三	四	〇、〇二二		
熊本	一七四	四	〇、〇二二		
山口	一一九	二	〇、〇一七		
福島	七七	一	〇、〇一三		
長野	八七	二	〇、〇二三		
和歌山	四八	一	〇、〇二一		
愛知	五三	三	〇、〇五七		
広島	二三	一	〇、〇四三		
埼玉	一八	一	〇、〇五五		
富山	二二	一	〇、〇四五		
滋賀	一四	二	〇、〇四三		
山形	一一	一	〇、〇九九		
合計	一、七一四	三六	〇、〇二一		

見ル可シ伝染性ナキ消化不良ニ斃ルル幼児ノ夥キヲ運送船ヨリハ病者ニ粥ヲ給シ移民組合ヨリハ哺乳器約五六十個ヲ分与セシモ船内凝乳ノ貯藏艱ク且凝乳ニ慣レザル為メ幼児ハ初メ之ヲ嫌フノ傾向アルヤ母ハ強イテ与フルヲ勉メズ且粥ノ如キモ患者以外ノモノガ之ガ支給ヲ受ケ真実ノ患者ハ予定量分与済ノ為メ之ヲ得ルコトヲ得ザルガ如キコトモアリタリ思フニ向後船内ニハ凝乳ノ貯藏ヲ豊富ナラシムルト共ニ輕燒等ノ菓子類ヲ積載セバ幼童ノ為メ幸ナラン歟今総人員一六九六名ニ出生一八名ヲ加算セル一七一四名ニ對スル死亡数三六名ノ割合ヲ見ルニ寔ニ二分一厘ノ率ヲ示ス更

員数ハ總テ出生ヲ加算セルモノニシテ合計員数ハ同總員数ヲ掲記ス

運動及娯楽 本運送船ハ船長ノ割合ニ船幅狹隘ヲ告ゲ加フルニ上甲板上便所浴室配膳所洗濯室及ビ病室等ヲ設ケタル結果全ク遊歩ノ余地無クサナキダニ運動不足勝ナル船上生活ニ対シ誠ニ堪ヘ難キ苦痛タリシヲ免レズ移民組合ヨリハ小説講談集ヲ分与シ船ヨリハ蓄音器将棋碁等ヲ貸与シテ其ノ娯楽ニ供シタリ且赤道通過ニ際シテ其ノ祝祭ヲ兼ネ移植民中ノ多芸ナル者出テテ余興ヲ試ミ大ニ効果ヲ得タリ又印度洋上少幼ノ為メニ運動会ヲ開キタルガ前述ノ如ク船上狹隘ノ為メ遺憾ノ点大ナリキ小官モ亦船内無聊ヲ慰メ且ハ又之ニ依リテ衛生思想共同生活ヲ了解セシメント欲シ数次歌詞ヲ試作シ之ヲ配布セシニ効果ノ顯著ナルヲ見タリ将来船内教育トシテ相当教育育兒ニ經驗アル者ヲ便乗セシメ幼童ノ看護ヲ托サバ蓋シ効果思半ニ過グルモノアラン今次航海中移民組合輸送員ヨリハ博多丸新報ト号スル謄写印刷物ヲ三回配布セシモ記事ノ内容貧弱ニシテ營單ニ輸送員ノ意思伝達ニ留リ更ニ修養的娯楽のナラザリシハ其点ニ関シ無經驗ナル会社員ノ手ニナルモノナレバ無理カラヌコトナレドモ後來上記經驗者ヲ便乗セシメ且此等ヲモ担任セシメバ可ナラン歟

一二等船客並ニ船員ノ上陸ヲ許容シタリ然ルニ同地ニ於ケル採炭ハ昼夜兼行ニテ急ギタルモ粉炭ニ等シキ惡質ノモノナリシヲ以テ粉末飛散シ移民ノ健康ヲ害ネタルコト尠少ナラザリシト思考ス猶「サントス」上陸ノ視察ハ荒井通訳官ノ報告ニ委シ敢テ記サズ

四、余 論

船員並ニ輸送員ノ態度 高級船員及輸送員ノ移植民ニ対スル至極温容ニシテ田口監督ハ部下ニ令シテ移民ナル言葉ノ使用ヲ嚴禁シ鄭重極マリタリ小官潛ニ余リ鄭重ニ過グルハ却テ移民生活ノ各般ニ亘リ慈愛的巨細ノ注意ヲ欠ク無キヤヲ惧レタリ又船長ハ至極衛生ニ関シ心勞セルノ余リ少数移民ノ反感ヲ招キ且下級船員ノ言行粗暴ナル移民トノ間ニ爭論ヲ生シ大拳之ニ対スル監督者船長ヲ責ムルニ至レリ之等爭論ノ是非曲直ハ俄ニ断ズ可カラズト雖モ乗船ニ先チ下級船員及移民ニ対シ共ニ相当注意ヲ与ヘ置クヲ要シ船内如斯爭論ノ惹起ニ就テハ輸送員タルモノ亦一端ノ責ヲ負フ可キモノナラン今次輸送監督及同副監督ハ共ニ家族同伴セシガ将来輸送員ニハ家族ヲ同伴セシメザル方可ナルベシト信ズ運送船 這回航海中死者三十六名ヲ出シタルハ決シテ其数

酒保 船内ニ酒保ヲ設ケ午後三時ヨリ四時同七時ヨリ入時ノ兩回左記物品ヲ移植民ニ限り販売セルカ価格ノ低廉ナルト共ニ大ニ意ヲ得タリ最モ航路半ナラズシテ品切トナレリ能フバケンハ更ニ凝乳、用便紙、文房具、砂糖等ヲ積載販売セシメタキモノナリ

日本酒正宗	四合入一本	五拾錢
麦酒 麒麟	同 一本	參拾錢
サイダー	一本	拾八錢
煙草 敷島朝日バット		各定価通り

三、寄港地ニ於ケル視察

新嘉坡 同地ニ於テハ前回運送船若狹丸ノ脳脊髄膜炎ノ蔓延ニ鑑ミ港内入港ヲ禁シ港外碇泊ノ三井物産会社石灰船泰名山丸ヨリ石灰ノ移積ヲ為シ一二等船客ヲ除クノ外船員ト雖モ上陸ヲ禁シ陸上トノ交通ヲ遮断セリ其ノ檢疫ノ状況ヲ見ルニ檢疫医ノ面前ヲ漏ナク通過セシメ其ノ数ヲ檢シサナガラ人員点呼ヲ為スニ似タリ次イデ病室ノ患者ヲ檢診シ船医ニ就キ一般狀態ヲ聴取セリ

ケープタウン 同地ニ於テハ檢疫医来リテ一般衛生狀態ヲ聴取シ船内巡視ノ上病室患者ヲ檢診シタルニ止リ入港及ビ

尠少ナリト云フ可カラズ若シ移民ヲシテ安全ニ渡航ヲ了セシメント欲セバ根本的運送船ノ改造否新造ヲ必要トス貨物船ヲ改造シテ移民輸送船ト為シ帰航ハ復々貨物船ニ逆変スルガ如キ到底多クノ生命ヲ託スルニ充分ナリト云フ可カラズ若シ政府補助ノ下ニナリト運送船ヲ新造シ其之ヲ帰航貨物船ニ變更スルモ容易ニ寢室ニ再改シ得ルガ如キ裝置ヲ為シ置カバ最モ理想的ニシテ且一朝有事ノ際必ズ其ノ使途ヲ得ルコトトナル可シト雖モ今ハ現在貨物船改造ニ関シ二三卑見ヲ述ベント欲ス現在貨物船ハ如何ニ方法ヲ講ズト雖モ六七千噸級ノ船舶ニハ総員壹千名ヲ限ルヲ可トス一千七百有余名ヲ許容シタル政府ノ措置ハ近航ニ対スル觀念ヲ以テセルニアラザルヤヲ疑フ

船室 船室ハ近航ノ場合ト同様ニ造ラレ居ルモ家族ヲ伴ヒテ五十有余日間ノ航海ヲ為スコトナレバ之ヲ家族毎ニ夜間丈ケナリト垂綴ヲ為スノ要有ル可ク且家族中ト雖モ相当年齢ニ達セル独身者ハ之ヲ男女ニ分チ独身者室ニ收容スルヲ要ス可シ況ヤ其ノ家族ナルモノハ本邦家族制度ニ由ル通俗的称号ニアラズシテ一時渡航ノ為メ構成セル親族の一团ナルニ於テオヤ且換氣ニ関シ機関力ヲ利用シ機械的裝置ヲ施

シ時ヲ定メテ換氣ヲ行フガ如キハ今日ノ場合然ク至難ノ業ニハ非ザル可ク新鮮ナル空氣ハ船艙ヲ排シ從ツテ各種疫病ヲ減少スルコトトナルベシ

手荷物庫 這回移民ノ手荷物ハ之ヲ県別トセルノミニテ艙内ニ順序無く積込ミアリシ為メ船内氣候ノ変化ニ從ヒ衣類ノ入替ヲ為スノ際混雜名狀ス可カラズ今之ヲ棚様ノモノヲ設ケ番号順ニ整理シ置カバ至極宜シカル可シ

運動不足ノ救済策 病氣惹起ノ原因ハ多ク運動不足ニ歸ス可ク人員ヲ制限スルヲ要スルト共ニ輟嚮ノ如キヲ二三設置スルハ狹隘ノ船上ト雖モ其余地存ス可シ營養フ可キハ婦人ト乳兒ナリトス之ヲ強制的ニ運動セシムルモ幾分ノ効果アル可ク小官營テ船長等ト談合シ各婦人ニ洗濯ヲ強要セシニ輕微ノ船艙者ハ忽チ全快シタリ又初メ一若婦人ノ衛生ノ補助トシテ就役セル折海荒レ氣候暑熱ヲ加ヘタルニモ不拘渠ハ羣々トシテ職ヲ奉シテ怠ラズタママ其活動振ヲ擲擧スル者有ルニ及ビ其職ヲ辞シタルガ爾後尠少ノ船体動揺ニモ蒼然トシテ起ツ能ハザル有様ナリキ由是觀之船内ニ於テ婦人ニ相当ノ仕事ヲ与フレバ船艙者過半ヲ減シ從ツテ乳兒ノ健康ヲ保証スルニ庶幾ラン其ノ仕事ノ種類ニ至ツテハ考慮

ノ親シク觀取シタル所タレバナリ

出版物取締 海外渡航ニ関スル各種出版物ハ既ニ取締アルコトト信ズルモ今猶甚ダ寒心ス可キモノ有ルヲ遺憾トス針小棒大の記述ハ姑ク措キ日伯国交ニ関スル許ス可カラザルモノアリ本邦移民ハ他国移民ニ比シ携帯物ノ多夥ナルハ伯国官憲ノ一ノ疑惑タルノ折柄是等出版物ハ嚴重取締アル様其筋ニ御協議アランコトヲ希望ス今長野市県中村国穂編「ブラジルとヒリッピン」ト題スル中ヨリ二三左ニ抜載スヘシ

内地ヨリ品物ヲ多く持ッテ来レバヨカッタト思ツタ絹物ナドハ非常ニ高ク売レ又シャボンナンカハ内地ノ五錢位ノモノガ拾五錢位ニナリ云々(五四頁)
何シロー荷日本品ヲ持ッテ来タラ式千円位ニナルヨ(日本デ五百円位入レタラ)品物ニモヨルガ七八千円位ニナルモノモ有ルンダカラネ云々(六十四頁)

洋傘ハ多数持ッテ来テ売レバトクダ石ケン、ハミガキ、マツチ、ツケギ、マツチ十個約五十錢ライオン大袋一ツ三四十錢ニ売レル(七三頁)
絹ハンカチハ頗ルケトーガホシガル日本ノ三四倍位ニハ

ノ余地有ル可ク農家婦人トシテ適當ナルト共ニ衛生ニ障害無キヲ要スルハ言ヲ俟タス

移民取扱人取締 移民募集ニ従事スル者ノ中運送船ヲ説クニ完全ナル客船ニシテ寢床ノ設備日用品ノ販売何一ツ欠クル無キヲ以テ何等携帯ヲ要セザル旨ヲ誇大のニ声明セシ為メ用便紙スラ携ヘズ困却セル有リ輸送者ハ各寄港地ニ於テ希望ノ物品ヲ購入分与シタレ共前述募集員ノ言動ニ對シ怨嗟ノ声ヲ絶タザリキ思フニコハ移民取扱人ガ其ノ募集員ニ對シ船内生活ニ関シ事實詳細ニ説明シ置カザリシ結果ナルベク移民会社ガ配付セル印刷物ヲ見ルモ渡航後ノ有望ナルコト渡航後注意スベキコト等ヲ力説セルニモ不拘航海中ノコトニ至ツテハ嘗テ筆管一擲ノ勞ヲ惜ミタルハ甚ダ遺憾ニシテ移植民中ニハ南米ハ氣候温和ナリト聞キ寢具スラ携帯セズ氣温ノ激變ニ会ヒテ震ヘ居タルモノスラ見受ケタリ既述汗疣ノ予防ト寢具ノ必要トヲ述ブルモ猶且氣變ヲ察知シ得ルモノナレバ募集ノ際之等船内衛生ノ注意書ヲ分与セシムルト共ニ乗船ニ先チ船内生活ノ衛生の講話ヲ為スガ如キハ必ズ実行セシメラレンコトヲ希望ス蓋シ乗船前ノ一言ハ乗船後ノ數百言ニ優リテ効果アルコトハ各般ニ亘リテ小官

ウレル持參ノ見込ガ有ナラ布団ノ中へ入レルコト予備金ノ分ハ品物デ持ッテ来タガ利益ダ(七四頁)

家族構成ノ制限 渡航移植民中ニハ当国政府ノ補助金ノ關係ヨリ一時的養子縁組ヲ為スモノ比較的多キヲ見タルガ素ヨリ本邦家族制ノ現状ニ副ハザルト共ニ万般ニ就キ不都合続出スルモノナレバ養子縁組後相當期間ノ經過セザル者ハ渡航ノ許可ヲ与ヘザルガ如キハ実行スベキ方策ナラント信ズ(完)

二〇六 十一月二日 在サンパウロ松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛

讃岐丸ニテ伯国ニ到著ノ日本移民保護監督ノ
為サントス港ニ出張セル成瀬書記生ノ復命書

進達ノ件

附屬書 右復命書

通公第一六〇号 (二月十五日接受)

大正七年十一月二日

在サンパウロ

總領事 松村貞雄(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

新来移民保護監督ノ為メ成瀬書記生ニ「サントス」出張ヲ命ジ候別紙復命書提出致候ニ付茲ニ及進達候間御査閱相成様致度尚同書中運送船入港禁止ニ関スル政府内命ノ件ハ運送船中多数ノ西班牙熱患者有之トノ出所不明ノ誤報当州政府当局ノ耳ニスル所トナリ州大統領ヨリ中央政府ニ通報ノ結果在サントス官憲ニ入港ニ先チ調査方訓令アリタルモノニシテ事實無根ノ旨判明ト共ニ一時不安ニ裏マレタルサントス市民モ其ノ堵ニ安ズルヲ得タル次第ニ有之候尚今回ハ当局移民収容所ハ西班牙熱患者ヲ収容セル為メ渡来移民ハ小学校々舎ヲ代用セル臨時収容所ニ収容セルガ内部狹隘及設備充分ナラザル為メ多少ノ不平アリタルモ事情了解セル為メサシタル事故モ無ク万事敏活ニ運ビ兩三日ニシテ一同無事耕地へ出発致候ニ付併テ申進候 敬具

（附屬書）

サントス出張復命書

一、移民到着前ニ於ケル概況

今回運送船讚岐丸ハ十月二十四日「サントス」着ノ予定情報アリタルニモ不拘同日遂ニ入港ノ確報ナク二十五日小官ガ同地着後モ巷説種々ニ伝リ同日発行ノ同地「トリビュナ

ル」紙ニハ讚岐丸ハ亜弗利加「ダカール」ヲ經由シ来リタル旨報シタルヲ以テサナキダニ目下猖獗ノ西班牙熱恐怖ノ折柄ナレバ同船ノ入港無キト相俟ツテ風説ハ風説ヲ生ミ不安ノ情ヲ昂メツツアリ小官ハ同紙ノ記事取消方及其他機宜ト認ムルノ措置ヲ為セリ

一、運送船到着及檢疫狀況

二十六日午前九時三十分本船到着シタルモ検閱官一名「ランチ」ヲ仮リテ船側ニ到リ状況聴取シ同船ガ南亜「ケープタウン」ニモ寄港セズ目下船内衛生頗ル佳良ナル旨ヲ知り得テ帰来政府ノ電訓ヲ請ヒタリ蓋シ同船衛生狀態ノ如何ニヨリテハ入港禁止ス可キ政府ノ内命ニ接シ居タリトノコトナリ小官モ止ム無ク坡堤ヨリ一応引返シ正午移民局ランチニヨリ檢疫官及移民官並ニ水上警察官等ト共ニ運送船ニ至リタルモ政府ノ回訓未達ノ為港務官来船セズ一般ニ乗船ヲ許サズシテ檢疫官ノミ乗船シ檢了セリ午後二時半港務官乗船シ小官モ亦直チニ船内ニ入り檢疫ノ状況ヲ聞クニ各種書類ニ由リ調査セル上船医同伴船内及病室ヲ檢シ至極簡單ニ終了セリト云フ

一、上陸ノ実況

入セシメ（組合輸送員ヲシテ）船医指揮ノ下ニ之ヲ溶解分与シヨク其ノ成績ヲ挙げ得タリト云フ

一、船内衛生狀況

一般衛生トシテ入浴、髪洗、洗濯、掃除等ハ総テ前報告ト異ルナク今回ハ便乗者ニ宮島医学博士、平野医学士アリシヲ以テ同博士ヨリハ時々有益ナル衛生講話ヲ得タルト前記学士ノ診療援助アリタルトハ船医ノ増加ヲ必要トスルノ折柄異常ナル効顕ヲ見タリ且又前記博士同伴ノ佐々木看護婦及ビ移民中有免狀ノ經驗アル一看護婦アリテ相共ニ看護ニ助メタル為メ之亦遺憾ナク治療ノ効ヲ全ウセシメタリト云フ

一、受診患者ト病系統

今回ノ移民総數ハ壹千參百五拾五名ニテ受診者總員壹千〇參拾八名ナリ之ヲ病系のニ表示スレバ左ノ如シ

病系統	員數	病系統	
		病系統	員數
消化器系	三七四	眼科系	四五
呼吸器系	一一五	耳鼻咽喉科系	二五
血行器系	一	花柳病系	一六

船内設備ヲ見聞スルニ博多丸ノ設備ニ就キ詳報シ置キタル所ト大同小異ニシテ便所、浴室、病室、隔離室等總テ然リ唯ダ配膳室ヲ中央部ニ設ケタル為メ上甲板上ヤヤ広濶ナルヲ得タルヲ喜ブ通風採光モ依例如例三号艙ノ石炭艙代用ナル為メ採光充分ナラザルコトモ亦前回報告セシ所ト其ノ軌ヲ一ニセリ

一、航海中特殊ノ試行

今回ノ運送船内ニハ氷室ヲ設ケ絶エズ新鮮ナル野菜ノ供給ヲ計リ且便乗者宮島医学博士ノ説ニ從ヒ常飯麦ノ混合歩合ヲ四割乃至六割ニ増加シ且少幼ノ為メ新嘉坡ニテ凝乳ヲ購

脚	全身病系	寄生虫系	船	婦人科系	泌尿生殖器系	運動器系	神經系
氣			暈				
九二	八六	五一	三三	三九	一〇	一七	四六
死	精神病系	皮膚病系	湯	外	流行性耳下腺炎	腺病系	マラリヤ
胎分							
娩				傷			ヤ
一	一	一六四	六	五八	二九	二三	七

更ニ之ヲ年齒別ニ表示スレバ次ノ如シ

[illegible]

備考 合計ニ於ケル移民數ハ移民總數ヲ計上ス

							県別	年齒
合 計	鹿 兒 島	北 海 道	山 形	石 川	長 野	沖 繩	移民數	
一、三五五	九八	四七	一三	五九	一六	四四七		
四				一	一	二	未滿一年	
四		一	一			二	未滿二年	
二					一	一	未滿三年	
一	一						十五年	
							三十四年	
一	一	一	一	一	二	五	計	
〇、〇〇九	〇、〇一〇	〇、〇二一	〇、〇七七	〇、〇一七	〇、〇一八	〇、〇一一	移民數ニ對スル死亡率	

今回移民ハ比較の良成績ノ下ニ渡來セシガ思フニ小官ガ前
回報告中希望シ置キタル多數ノ項目中本船ノ之ヲ偶然ニモ

系	病	別	沖繩	
			野	長
結核性急性脳膜炎	一			
急性脳膜炎				
急性腹膜炎	一			
気管支肺炎	一			
胃潰瘍				
脚氣	一			
不発全育計	二			
			五	二

実行シ来リシコト多ク新鮮ナル野菜、凝乳等ノ供給麦飯ノ
麦混合歩合ヲ増加セル衛生講話ヲ為セル医師ノ増加（便乗
者ニ医師アリシ為メ）専門看護人ノ附随輸送者ノ独身等総
テ本船ノ実行セル所タリ若シ更ニ通風採光ニ意ヲ用ヒ運動
ニ間然スル所ナカラシメバ蓋シ理想的ニ庶幾シト云フ可シ
而シテ「サントス」到着ノ際移民中小形旭日旗ヲ手ニセル
モノ及ビ二三勲章ヲ胸間ニ輝シ晴レノ上陸ヲ記念セントセ
ルモノアリ其ノ心情ニ思ヒ到リ涙巾ヲ湿ホスモノアリタル
ガ之ヲ目撃セル伯国移民官ノ一人ガ水先案内人ニ私語スル
ヲ聞クニ他國へ来ルニ勲章ヲ得意然ト輝シ其國旗ヲ押立ツ

ルノ不都合ヲ挙ゲ居タリ本邦ト立国ノ基礎ヲ異ニシ風俗習慣全然相反スル伯国ノコトナレバ渡来移民ニハ適當ノ方法ニヨリヨク其ノ相異ルノ点ヲ會得セシメ伯国官憲ノ誤解ヲ招クガ如キ行動ハ小ト雖モ為サザル心掛ヲ必要トス可シト思考ス右及復命候也

大正七年十一月二日

在サンパウロ

外務書記生成瀬廉（印）